

平成23年度
全国学力・学習状況調査問題を活用した
北海道における学力等調査

～当別町における結果分析～

平成24年2月

当別町教育委員会

は じ め に

本年度は小学校6年生と中学校3年生を対象に、文部科学省による全国学力・学習状況調査の実施が予定されていましたが、3月11日の東日本大震災により、全国規模の実施は中止ということになりました。

しかし北海道では、参加希望調査という形での実施が計画され、調査日が4月から9月にずれこんだものの、当別町として全小・中学校が参加したところです。

調査の内容としては、これまでどおり教科に関する調査（国語と算数・数学）と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童・生徒対象と学校対象）がりましたが、このたび、北海道教育委員会より送付された調査結果をもとに、当別町の児童・生徒の学力及び生活習慣等の実態分析を行いました。

学力に関しては、小学校において全道平均と比較しますと、ほぼ同程度であります。やや下回っています。中学校においては、全道平均と比較しますと、ほぼ同程度ではあります。やや上回る結果となりました。

また、生活習慣、学習環境等については、これまでどおり、規則正しい生活習慣、学校への目的意識、自尊意識、社会への興味関心などが子どもたちの心を安定させ、学習意欲を高めて学力の定着に関係している傾向があります。また、改善してきてはいるものの、家庭学習の定着やテレビ視聴・ゲームの時間などに、まだ課題が見受けられます。

本報告書では、こうした調査結果を検証・分析し、教科においては課題に対応した指導改善方策の一部をとりまとめ、生活習慣や学習環境等については、できるだけ学力との相関関係に注目しつつ改善の視点をまとめました。

各学校においては、本調査結果を活用いただき、今後も学校ごとに成果と課題を分析し、これからの児童・生徒の学力の向上や生活習慣等の改善を図るため、家庭・地域との連携を図り、より一層ご尽力いただくことを期待します。

当別町教育委員会

目 次

全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査のポイント	1
教科に関する調査結果	
1 小学校国語	2
(1) 小学校国語 A (知識)	
(2) 小学校国語 B (活用)	
(3) 小学校国語改善のポイント	
2 小学校算数	5
(1) 小学校算数 A (知識)	
(2) 小学校算数 B (活用)	
(3) 小学校算数改善のポイント	
3 中学校国語	8
(1) 中学校国語 A (知識)	
(2) 中学校国語 B (活用)	
(3) 中学校国語改善のポイント	
4 中学校数学	11
(1) 中学校数学 A (知識)	
(2) 中学校数学 B (活用)	
(3) 中学校数学改善のポイント	
生活習慣や学習環境等に関する調査結果	
1 小学校における児童質問紙調査の結果	14
(1) 基本的な生活習慣について	
(2) 家庭学習について	
(3) 学校生活について	
(4) 自尊意識・規範意識について	
(5) 家族とのコミュニケーションについて	
(6) 興味関心・意欲について	
(7) テレビゲーム・インターネット、携帯電話について	
2 中学校における生徒質問紙調査の結果	21
(1) 基本的な生活習慣について	
(2) 家庭学習について	
(3) 学校生活について	
(4) 自尊意識・規範意識について	
(5) 家族とのコミュニケーションについて	
(6) 興味関心・意欲について	
(7) テレビゲーム・インターネット、携帯電話について	
3 学校質問紙に関する調査結果	28
(1) 学習態度	
(2) 学習意欲に向けた取り組み	
(3) 学習支援	
(4) 国語科、算数・数学科の指導法	
(5) 地域の人材活用	
(6) 習熟度別少人数指導	

平成 23 年度全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における 学力等調査のポイントについて

～ 当別町における調査結果の概要 ～

当別町教育委員会

本調査結果は、「平成 23 年度全国学力・学習状況調査問題を活用した北海道における学力等調査結果」に基づき、現時点において明らかにすることができる本町の学力及び学習状況について、本町の小中学校における調査結果の概要を掲載したものです。

【調査の概要】

- 1 調査の目的**
- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - イ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 - ウ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 2 調査の対象学年**
- 小学校第 6 学年
 - 中学校第 3 学年

3 調査の内容

教科に関する調査

主として「知識」に関する問題【国語 A、算数・数学 A】	主として「活用」に関する問題【国語 B、算数・数学 B】
<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況に関する調査

4 調査期日

平成 23 年 9 月 27 日（火）

5 9 月 27 日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	実施学校数（実施率）	児童生徒数
小学校	3	3（100.0%）	170人
中学校	3	3（100.0%）	196人
合計	6	6（100.0%）	366人

1. 教科に関する調査結果

小学校国語 A (知識)

本町児童の国語 A (知識) は、今回出題された学習内容に関して全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

「ほぼ同程度」は、全道平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内
「全道平均」とは、本道の希望利用調査の結果

領域の様子 (各教科の領域は、全道平均との比較)

- 【話すこと・聞くこと】領域
全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。
- 【書くこと】領域
全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。
- 【読むこと】領域
全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。
- 【言語事項】領域
全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

今回の調査における特徴的な問題 (当別町児童の正答率の全道との比較)

は成果のあった問題、 は課題のあった問題

1二(2)「学年別漢字配当表の該当学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書く」

・カラスの数がひじょうに多い。 <正答> 非常
(全道を7.8ポイント上回っている)

8一、二 「国語辞典を利用して語句を調べる方法を理解する」

・次の1から4までの言葉を国語辞典で調べます。最初に出てくる言葉を選ぶ
1 電柱 <正答> 3 鉄筋
2 鉄道 (全道を4.2ポイント下回っている)
3 鉄筋
4 電車

・「明日の試合にそなえて早くねる」の「そなえ」をどのような言葉にして国語辞典で調べるとよいですか。ひらがな4文字で書きましょう

<正答> そなえる
(全道を9.4ポイント下回っている)

小学校国語B（活用）

本町児童の国語B（活用）は、今回出題された学習内容の知識・技能を活用する力に関して全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

「ほぼ同程度」は、全道平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内
「全道平均」とは、本道の希望利用調査の結果

領域の様子（各教科の領域は、抽出の全道平均との比較）

【話すこと・聞くこと】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

【書くこと】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

【読むこと】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

【言語事項】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

今回の調査における特徴的な問題（当別町児童の正答率の全道との比較）

2二 「提案に対する相手の意見を取り下げて自分の考えと理由を書く」

- ・委員の考えを二つの文にして、80～100字以内にまとめ1文は（しかし、～します。）で、2文は（それは～からです。）の形にする。

< 正答例 >

しかし、下校の時間にあいさつをよびかける案は取り上げず、登校の時間だけ取り組むことにします。それは、下校の時間が学年によってちがい、委員がそのたびに出入り口に立つことはむずかしいからです。

（全道を4.5ポイント上回っている。）

3ーア 「2つの伝記を読み比べて登場人物の心情を表している言葉や文を抜き出す」

- ・アの中に入るふさわしい言葉や文を資料2の中から抜き出しましょう。

< 正答 >

彼等は私を受け入れてくれるにちがいない

（全道を4.5ポイント下回っている。）

◎小学校国語改善のポイント

国語 A 8一、二 【国語辞典を利用して語句を調べる】

・出題趣旨

国語辞典に掲載されている語句の配列順序や語句を調べる際の終止形変換を理解しているかをみる。

国語辞典のつかい方を正しく理解することは、国語科のみならず、各教科や日常生活において重要な能力である。

・ポイント1

国語辞典で語句を調べるには、五十音順に語句の一文字から順に検索しなければならない。また、通常、濁音、半濁音は清音の後に掲載され、拗音、促音、撥音は、清音の順序に準じて掲載されていることを理解しておくことが大切である。
(したがって四つの語句は、「鉄筋」「鉄道」「電車」「電柱」の順となる)

・ポイント2

国語辞典を利用して語句を調べるときは、常体の終止形にする必要がある。問題の「そなえ」は「そなえる」の連用形になり、終止形の「そなえる」として検索することとなる。

・ポイント3

国語科や各教科、日常生活の中で積極的に辞書を利用する習慣を付けるためには、必要なときにいつでも辞書が手元にあることが大切である。つまり、そのような言語環境づくりに配慮することが重要である。

国語 B 3ーア 【優れた叙述を多面的に捉える】

・出題趣旨

二つの資料を比べて読み、それぞれの資料から登場人物の心情や相互関係を捉えるため、その人物の行動や心情の変化・場面の移り変わりなどを叙述に基づいて読む能力が重要である。

・ポイント1

二つの資料(自伝と評伝)を比べて読み、同じような場面を対比させてラインマーカーを引く。ラインマーカーの箇所を簡潔にカード等に書き出す。人物の行動や心情描写に注目してサイドラインを引きながら、自伝と評伝の違いについて理解する。自伝と評伝の書き手の違いや書き表し方の特徴についてまとめる。

・ポイント2

人物の呼び方に着目する。「私が」(一人称)と「直己が」(三人称)という表現の違いを発見すると、書き手である人物が分る。

小学校算数 A

本町児童の算数 A (知識) は、今回出題された学習内容に関しては、全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

「ほぼ同程度」は、全道平均正答率と比較して ± 3 ポイントの範囲内
「全道平均」とは、本道の希望利用調査の結果

領域の様子 (各教科の領域は、全道平均との比較)

【数と計算】領域

全道平均を下回っている。

【量と測定】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

【図形】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

【数量関係】領域

全道平均を下回っている。

今回の調査における特徴的な問題 (当別町児童の正答率の全道との比較)

1 (2) 「少数と整数の乗法計算」

$$\cdot 13.9 \times 7$$

<正答> 97.3 (全道を2.2ポイント上回っている)

1 (7) 「異分母の分数の加法計算」

$$\cdot 1/4 + 2/5$$

<正答> 13/20 (全道を19.1ポイント下回っている)

8 「百分率の意味について理解している」

・ 100人のうち40%の女子の人数と求める式を書く

<正答> $100 \times 0.4 = 40$ 人 (全道を10.9ポイント下回っている)

小学校算数 B

本町児童の算数 B (活用) は、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力に関して全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

「ほぼ同程度」は、全道平均正答率と比較して ± 3 ポイントの範囲内
「全道平均」とは、本道の希望利用調査の結果

領域の様子 (各教科の領域は、抽出の全国平均・全道平均との比較)

【数と計算】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

【量と測定】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

【図形】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

【数量関係】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

今回の調査における特徴的な問題 (当別町児童の正答率の全国・全道との比較)

3 (2) 「図形の定義条件を理解している」

・正方形であることを紙を折って確かめるとき、その折り方で何を確かめたことになるのかを選ぶ

< 正答 > 4 4つの角が直角で4つの辺の長さが等しいこと
(全道を6.4ポイント上回っている)

2 (2) 「2量関係を正しく表している図を判断し、その理由を記述できる」

・2分音符と付点2分音符の長さの関係を正しく表している図を選びその理由を書く

< 正答 > イ 目もり4つの1.5倍なので、6目もりになるから
(全道を4.7ポイント下回っている)

5 (3) 「ゴンドラが上がるときの説明を解釈し、下がる時に適用して説明する」

・急に下がるように感じるのを遊園地の係りの人と同じように説明しなさい

< 正答例 >

オから力では14m下がります。力からアでは7m下がります。
(全道を7ポイント下回っている。)

小学校算数改善のポイント

算数A 1(7) 【異分母の分数の加法計算を理解する】

・出題趣旨

異分母分数の加法、減法は、通分して計算することが重要である。

・ポイント1

$1/4 + 2/5$ の計算の場合、2つの分母(4と5)の最小公倍数である20を用いると、 $1/4 + 2/5 = 5/20 + 8/20$ と通分できる。

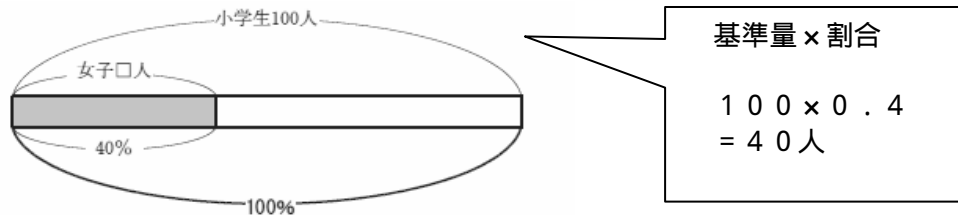
算数A 9 【百分率の意味を理解する】

・出題趣旨

問題文に示された数量で、何が基準量・比較量を理解することが重要である。

・ポイント1

数量の関係をテープ図や線分図などに表す活動を取り入れ、何が基準量かを考えられるようにし、基準量を100としてみる見方が必要である。

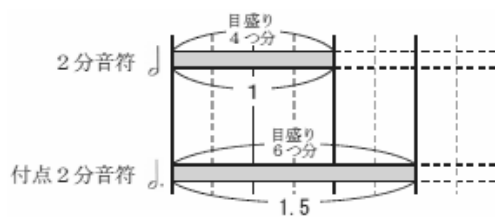


算数B 2(2) 【2量の関係を正しく判断し、理由を記述する】

・出題趣旨

2量関係を正しく表している図を選択し、その判断理由を記述できるかをみる

・ポイント1



付点音符の長さはもとの音符の長さの1.5倍である。

図から2分音符の長さは、目盛り4つ分とみることができるので付点2分音符の長さは1.5倍で、 $4 \times 1.5 = 6$ (目盛り) となる。

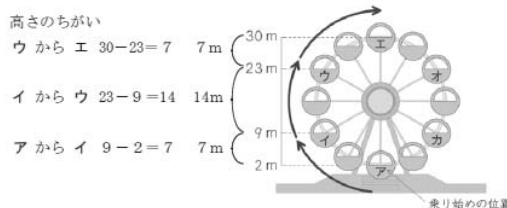
よってイが正しいと判断する。

算数B 5(3) 【2量の関係を正しく判断し、理由を記述する】

・出題趣旨

ゴンドラの動きと感じ方を数学的に考察することが重要である。

・ポイント1



オからカでは14m下がる。
カからアでは7m下がる。
同じ1分でもオからカに動くときは、高さの違いが大きいのだからゴンドラは急に下がるように感じる。

中学校国語 A

本町生徒の国語 A (知識) は、今回出題の学習内容に関して全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

「ほぼ同程度」は、全道平均正答率と比較して ± 3 ポイントの範囲内
「全道平均」とは、本道の希望利用調査の結果

領域の様子 (各教科の領域は、抽出の全国平均・全道平均との比較)

【話すこと・聞くこと】領域

全道平均を上回っている。

【書くこと】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

【読むこと】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

【言語事項】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

今回の調査における特徴的な問題 (当別町生徒の正答率の全国・全道との比較)

は成果のあった問題、 は課題のあった問題

7二 「話合いの方向を捉えて的確に発言する」

司会の林さんは中村さんの発言に不足があると思いましたが、中村さんにどのように問いかけるとよいですか。これまでの林さんの発言を参考にして、10～30字以内で書きなさい。

< 正答例 >

部室を案内することに反対の理由は何ですか。(全道を7.5ポイント上回っている)

9 「文章に即して漢字を正しく書く、読む」(6問中5問が全道を上回っている)

- ・ 9-1 かぜをヨボウする
(正答 予防 正答率は全道と全く同じ)
- ・ 9-2 祭りの日程をケントウする
(正答 検討 正答率は全道を10ポイント上回っている)
- ・ 9-3 あいさつをカわす
(正答 交 正答率は全道を9.9ポイント上回っている)
- ・ 9二1 筆にセいがある
(正答 いき 正答率は全道を3.6ポイント上回っている)
- ・ 9二2 生産量が増えるク傾向にある
(正答 けいこう 正答率は全道を2.9ポイント上回っている)
- ・ 9二3 目上の人をウ敬う
(正答 うやま 正答率は全道を5.2ポイント上回っている)

中学校国語B

本町生徒の国語B(活用)は、今回出題された学習内容の知識・技能を活用する力に関して全道平均と同程度だが、やや上回っている。

「ほぼ同程度」は、全道平均正答率と比較して ± 3 ポイントの範囲内
「全道平均」とは、本道の希望利用調査の結果

領域の様子(各教科の領域は、抽出の全国平均・全道平均との比較)

【書くこと】領域

全道平均を上回っている。

【読むこと】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

【言語事項】領域

全道平均を上回っている。

今回の調査における特徴的な問題(当別町生徒の正答率の全国・全道との比較)

3-「文章の内容を正確に捉える」

・裏表紙の文章から分ることとして適切なものを選択する

<正答> 4 Aの本に載っているイソップの話の数や題名、対象としている読者の学年が分る
(全道を7.2ポイント上回っている)

3三「文章に書かれている事柄を基に今までの体験や読書の経験と結びつけて自分の考えを書く」

・読みたい本を条件にしたがって選択し、その理由を50～80字以内で書く

<正答例>

小さいころに読んだことがある「ウサギとカメ」や「肉をくわえたイヌ」が紹介されていて、とてもなつかしく感じたので、それらをもう一度読んでみたくなったからだ。

(全道を8.2ポイント上回っている。)

中学校国語改善のポイント

国語 A 7二 【話し合いの方向を捉えて的確に発言する】

・ 出題趣旨

話し合いが効果的に展開するため、司会は目的に沿って理由を問うたり他の発言を促したりするなどの役割が重要である。

・ ポイント 1

中村さんの発言には部室を案内することに反対する理由が述べられていない。したがって次の三つの条件を満たすことが求められる。 反対理由が不足していることを捉えて書く。 中村さんに問いかける言い方、発言を促す言い方で書いている。 十字以内、三十文字以内で書いている。

国語 A 9 【文脈に即して漢字を正しく読む・書く】

・ ポイント 1

漢字は、一字一字を正確に読み書きできるようにするだけでなく、文脈に即して使えるようにするすることが大切である。そのためには、実際に漢字を読んだり書いたりする機会を多くして、習熟を図ることが重要である。

国語 B 3一 【文章の内容を正確に捉える】

・ 出題趣旨

文章の内容を正確に捉えるために、必要な情報を探し、関連させながら読むことが重要である。

・ ポイント 1

本を読む際には、本の表紙や帯などに、その本の内容や特徴などに関わる情報があることに気付かせ、日常生活において本を選ぶときの手がかりとなることを理解させる必要がある。読書生活を豊かにするためには、本の表紙や帯などに示されている情報を活用して、複数の本を比べたり、目的に合った本を選んだりすることも大切である。

・ ポイント 2

文章を読んで自分の考えを明確に持たせるためには、単に印象を述べるにとどまらず これまで身に付けてきた知識や自分の体験などと関連付けて具体的に書かせることが大切である。例えば、詩歌などを鑑賞する文章、新聞記事に対して意見を述べる文章、友だちが創作した物語を批評する文章など、様々な形態の文章を書く中で繰り返し指導すると効果的である。

中学校数学 A

本町生徒の数学 A (知識) は、今回出題された学習内容に関して全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

「ほぼ同程度」は、全道平均正答率と比較して ± 3 ポイントの範囲内
「全道平均」とは、本道の希望利用調査の結果
領域の様子 (各教科の領域は、抽出の全国平均・全道平均との比較)

【数と式】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

【図形】領域

全道平均を上回っている。

【数量関係】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

今回の調査における特徴的な問題 (当別町生徒の正答率の全国・全道との比較)

2 (2) 「数量の関係や法則などを文字式で表現する」

・連続する 3 つの自然数のうち最も小さい自然数を n とするとき、その連続する 3 つの自然数をそれぞれ n を用いた式で表す

<正答> $n, n+1, n+2$
(全道を 11.2 ポイント上回っている。)

1 (4) 「加減乗除を含む正の数と負の数の計算において計算の決まりに従い計算する」

・ $3 - 2 \times (-4)$ の計算

<正答> 11
(全道を 4.8 ポイント下回っている。)

13 (1) 「事象の起こる確率を求める」

・ 2 枚の硬貨を同時に投げるとき、2 枚とも表の出る確率

<正答> $1/4$
(全道を 6.7 ポイント上回っている。)

13 (2) 「中央値の意味の理解」

・ある学級の生徒 35 人が 100 点満点のテストで得点の中央値は 50 点でした。このとき必ずいえることを 1 つ選びなさい。

<正答> エ 35 人の得点を高い順に並べたとき、高い方から 18 番目の人の得点が 50 点である
(全道を 10 ポイント下回っている。)

中学校数学 B

本町生徒の数学 B(活用)は、今回出題された学習内容の知識・技能を活用する力に関して全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

「ほぼ同程度」は、全道平均正答率と比較して ± 3 ポイントの範囲内

「全道平均」とは、本道の希望利用調査の結果

領域の様子(各教科の領域は、抽出の全国平均・全道平均との比較)

【数と式】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

【図形】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。

【数量関係】領域

全道平均とほぼ同程度だが、やや下回っている。

今回の調査における特徴的な問題(当別町生徒の正答率の全国・全道との比較)

3(1)「事象を数量や図形に着目して観察し、その特徴を的確に捉える」

・タレスの方法を読み、点Aから船Bまでの距離を何に置き換えて測ればよいか

<正答> 線分DE
(全道を4.9ポイント上回っている。)

5(1)「範囲の意味に基づいて表から必要な情報を読み取る」

・2人の球速の範囲をそれぞれ求める

<正答>
島 $147 - 108 = 38$
一二三 $147 - 105 = 42$

(全道を6.2ポイント上回っている。)

5(2)「資料の傾向を的確に捉え、判断理由を数学的な表現を用いて説明する」

・ヒストグラムの特徴を基に時速131 Kmの球速に的を絞って練習することが適切でない理由を説明する

<正答例>
このヒストグラムには2つの山があり、時速131 Kmの速球は山の頂上ではなく、この速球が来る見込みが低いので、時速131 Kmには的を絞ることは適切でない。

(全道を4.3ポイント下回っている。)

中学校数学改善のポイント

数学A 1(4) 【加減乗除と正負の数の計算方法を理解する】

・出題趣旨

加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算の決まりにしたがって正しく計算できるかどうかをみるものである。

・ポイント1

乗除が加減に先行することを理解する。 $+ \times + = +$, $- \times - = +$, $+ \times -$ または $- \times + = -$ を理解する。この内容は、中学校数学家の学習全般において必要である。

数学A 13(2) 【中央値の意味を理解する】

・出題趣旨

中央値などの代表値の意味を理解することは、実生活において資料の特徴を代表値を用いて簡潔に表し把握する際に必要である。また、高等学校におけるデータ分析の学習の際に必要である。

・ポイント1

代表値や資料の散らばりに着目して、その資料の傾向をよみとることができるようにすることが大切である。そのために、平均値は大きく影響を受けるのに対し、中央値は影響が出にくいことを実感することが必要である。

正答は、35人の得点を高い順に並べたとき、中央値は18番目の値となり、したがって、エとなる。

数学B 5(2) 【判断理由を数学的な表現を用いて説明する】

・出題趣旨

資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することが求められている。時速131Kmの球速は分布の谷に当たることを根拠にして、時速131Kmに的を絞ることは適切でないことを説明できるかをみるものである。

・ポイント1

ある事柄についての判断の理由を説明する場合には、説明すべき事柄とその根拠の両方を示す必要がある。この設問では「時速131Kmの球速は分布の谷にあたる」ことを根拠にして「時速131Kmに的を絞ることは適切でない」ことを説明することになる。その際、説明すべき事柄とその根拠を明確に区別し、「AだからBである」のように、的確に説明できるようにすることが大切である。

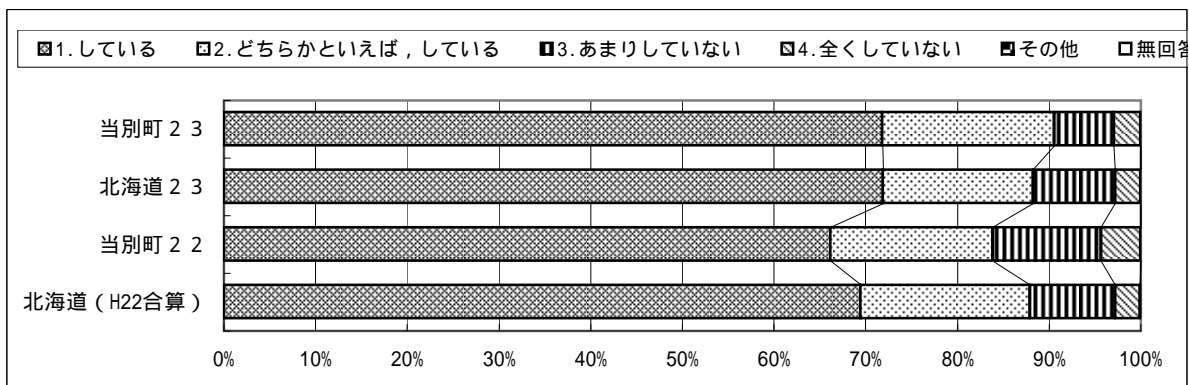
生活習慣や学習環境等に関する調査結果

1. 小学校における児童質問紙調査の結果

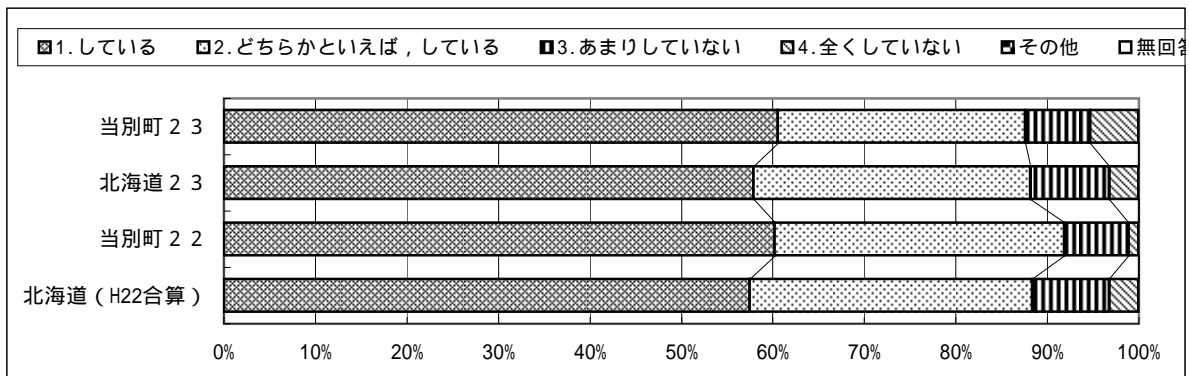
(1) 基本的な生活習慣について

「学校に持っていくものを前日かその日の朝に確かめている」児童の割合は71.8%で、全道と同数で、昨年より改善されている。
 「毎日同じくらいの時刻に起きる」割合は、60.6%で、全道よりも2.8ポイント高く、昨年とほぼ同じ傾向である。
 「同じくらいの時刻に寝る」割合は、37.1%で、全道とほぼ同様の傾向である。

質問：学校に持っていくものを前日かその日の朝に確かめている



質問：毎日同じくらいの時刻に寝ている



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

学習道具を確認する児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。

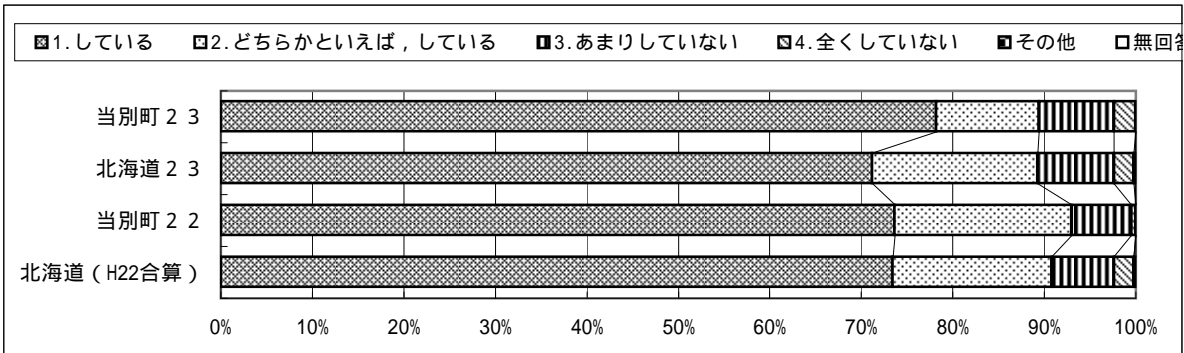
< 考 察 >

基本的な生活習慣に関しては、自分で学習用具を確認したり、同じくらいの時刻に起きるなど生活習慣が定着している児童の方が、正答率が高い傾向にある。
 また、「朝食を毎日食べている」割合は、今年度の当別町児童は全道とほぼ同程度であるが、学習用具の確認率には改善傾向が見られる。したがって、「早寝早起き朝ごはん運動」を中心にして、今後とも、基本的な生活習慣を徹底していく必要がある。

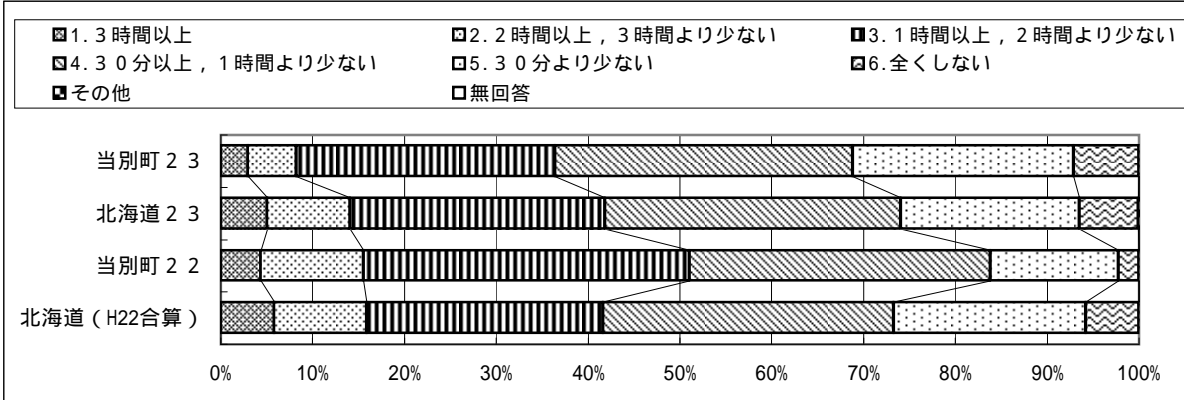
(2) 家庭学習について

「家庭で宿題をしている」当別町児童の割合は、78.2%で、全道より7ポイント高く、昨年よりも改善されている。
 「学校の授業以外で普段一日に1時間以上勉強している」当別町児童の割合は36.4%で、全道より5.5ポイント低く、昨年より1.5ポイント近く低くなっている。
 「家でテストで間違えた問題を後で勉強している」当別町児童の割合は17.1%で、全道より7.4ポイント低く、昨年よりも1.1ポイント近く低くなっている。

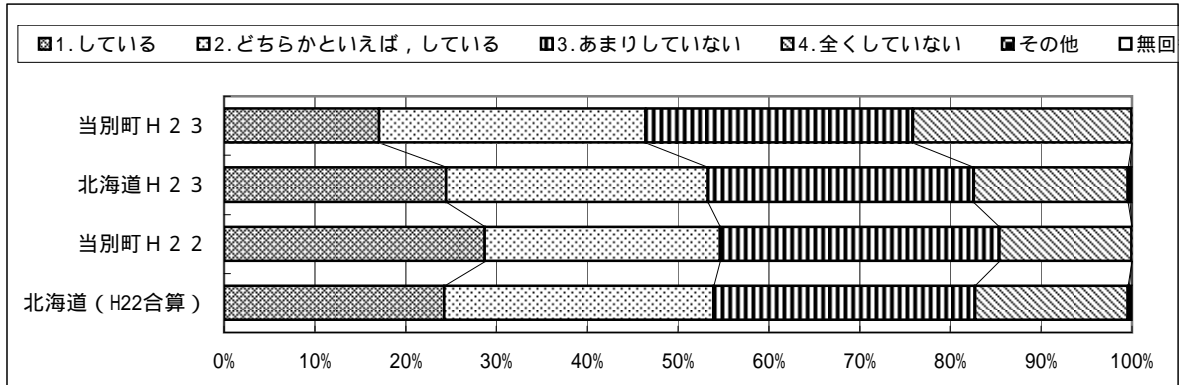
質問：家で宿題をしていますか



質問：家で1時間以上勉強をしている



質問：家で、テストの間違いを勉強し直す



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

家で宿題や家庭学習をしている児童や、テストの間違いを後で勉強し直す児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。

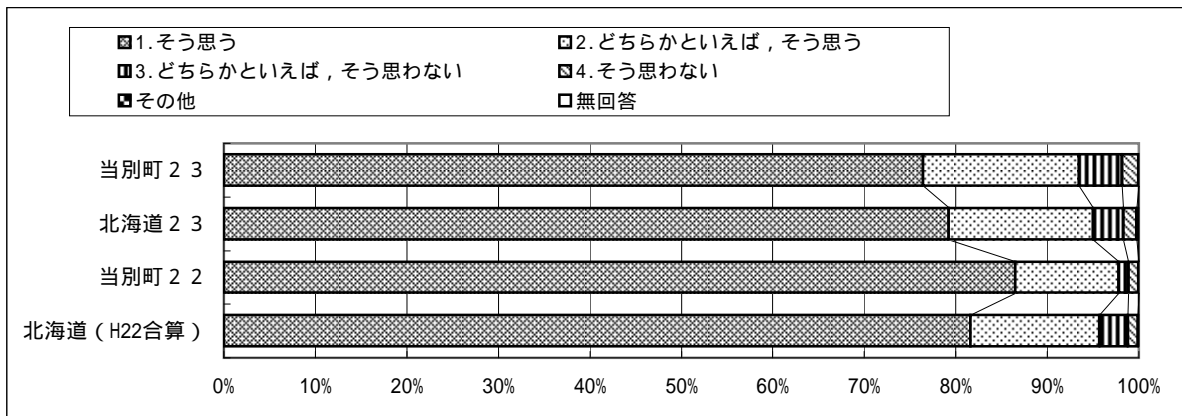
< 考 察 >

家庭学習習慣の定着は、学力向上の大きな要因の一つである。したがって、宿題をしっかりと行うことや、テストの間違いを勉強し直す習慣を身に付けさせることが、益々重要となってくる。
 今年度は、家庭学習時間やテストの間違いを直す項目に課題が見られ、規則正しい就寝・起床時刻の定着やテレビを見る・ゲームをする時間の約束など、基本的な生活習慣の定着とあわせて、家庭と連携した取組が大切となってくる。

(3) 学校生活について

「学校で友達と会うのが楽しい」当別町児童の割合は76.5%で、全道より2.7ポイント低い。昨年は3ポイント近く高かったので今年度は課題が残る。

質問：学校で友達と会うのが楽しい



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

学校で友達と会うのを楽しみにしている児童の方が、正答率が高い傾向が見られる。

< 考 察 >

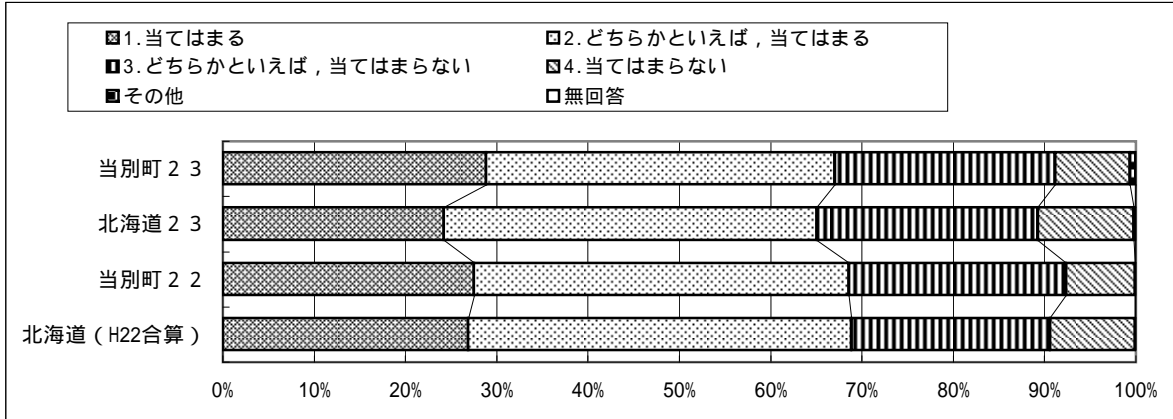
「好きこそものの上手なれ」の言葉のように、「楽しい学校・分かる授業」など内発的学習意欲を高めて、学習に積極的に向かう姿勢づくりが極めて大切である。

(4) 自尊意識・規範意識について

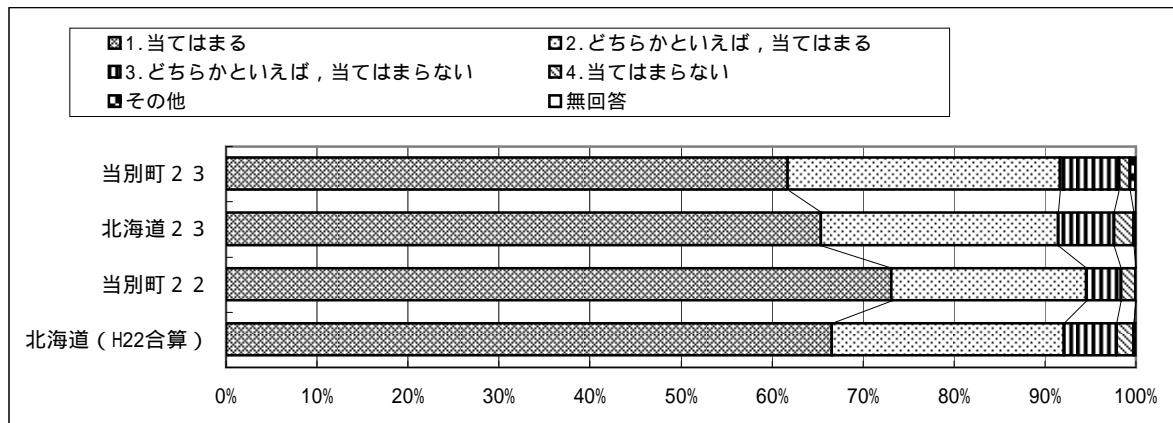
「自分には良いところがある」と思う当別町児童の割合は、28.8%で、全道より4.6ポイント高く、昨年と同程度である。

「いじめはどんな理由でも許されない」と思う当別町児童の割合は、76.5%で、全道より0.9ポイント高く、昨年よりは10ポイント近く数値が低い。
 「人の役に立つ人間になりたい」と思う当別町児童の割合は61.8%で、全道より3.6ポイント高く、昨年より11.3ポイントも低い。

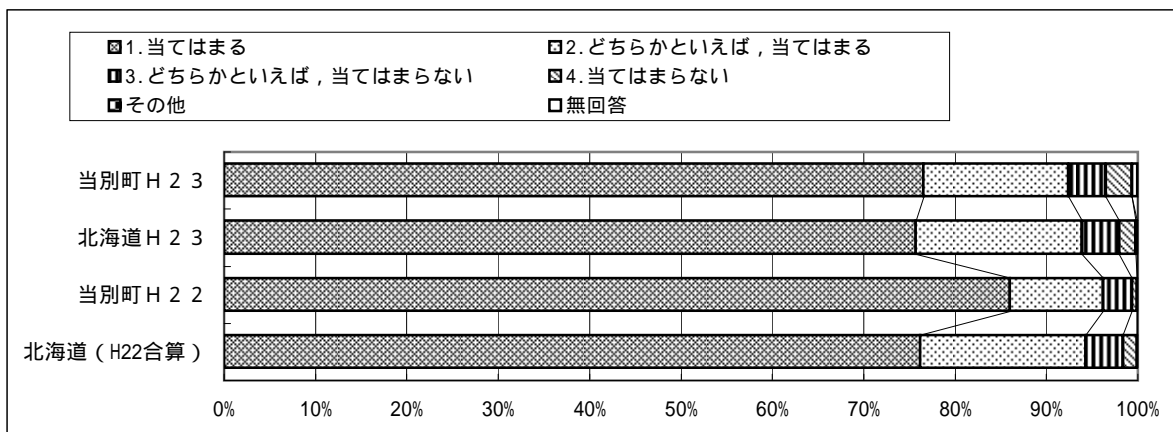
質問：自分には良いところがあると思いますか



質問：人の役に立つ人間になりたいと思いますか



質問：いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

「自分には良いところがある」と思っている児童の方が、正答率が高い傾向にある。

「人の役に立ちたいと」思っている児童の方が、正答率が高い傾向にある。

「将来の夢や目標を持っている」児童の方が、正答率が高い傾向にある。

「いじめはいけないこと」と思う児童の方が、正答率が高い傾向にある。

< 考 察 >

当別町 6 年児童は「自分には良いところがある」の項目が全道より高く、「人の役に立ちたいと思っている」項目が、全道を下回っているなど、多少の変動はあるが、概ね「自尊意識・人権尊重」の教育が着実に定着しているといえる。

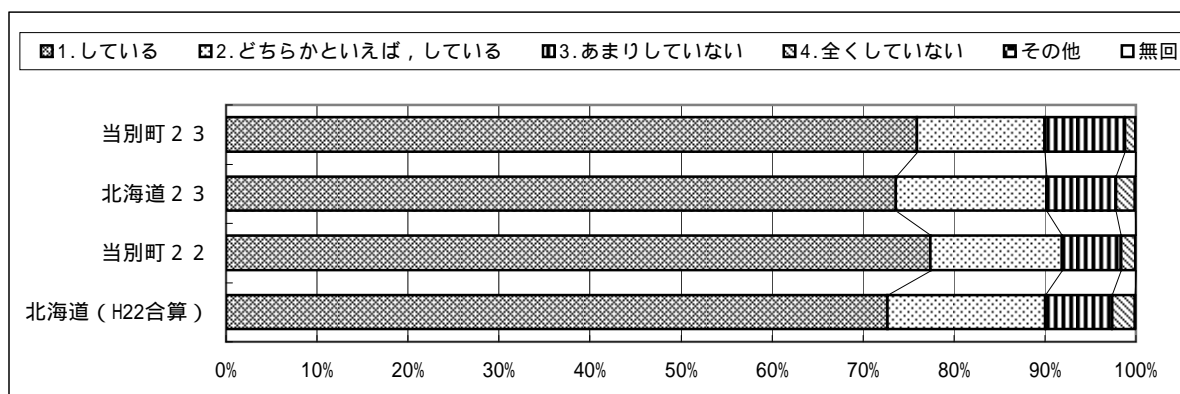
したがって、さらにキャリア教育・道徳教育・生徒指導などの充実を図って、支持的な学級・学校風土をつくっていくことが大切である。

(5) 家族とのコミュニケーションについて

「家の人と普段（月～金曜日）夕食を一緒に食べている」当別町児童の割合は 73.6% で、全道より 2.3 ポイント高い。

「家の手伝いをする」当別町児童の割合は 25.3% で、全道より 3.2 ポイント低い。

質問：家の人と夕食を一緒に食べている



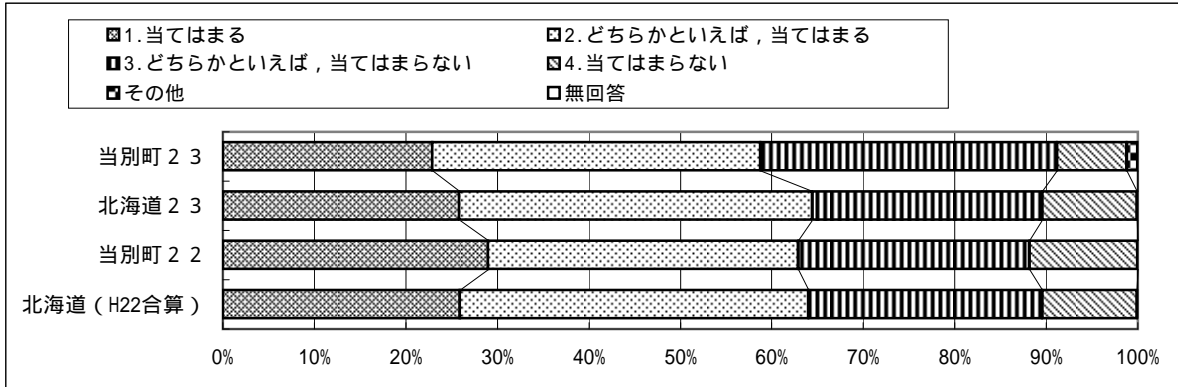
< 考 察 >

家の人と夕食を一緒に食べている当別町児童の割合が、今年度も全道と比較して高い傾向にあるが、家のお手伝いの項目は、低くなった。安定した家庭生活・家族との円滑なコミュニケーションは、児童にとって欠かせることができない「心の安定」「健全なる子育て」の原点である。

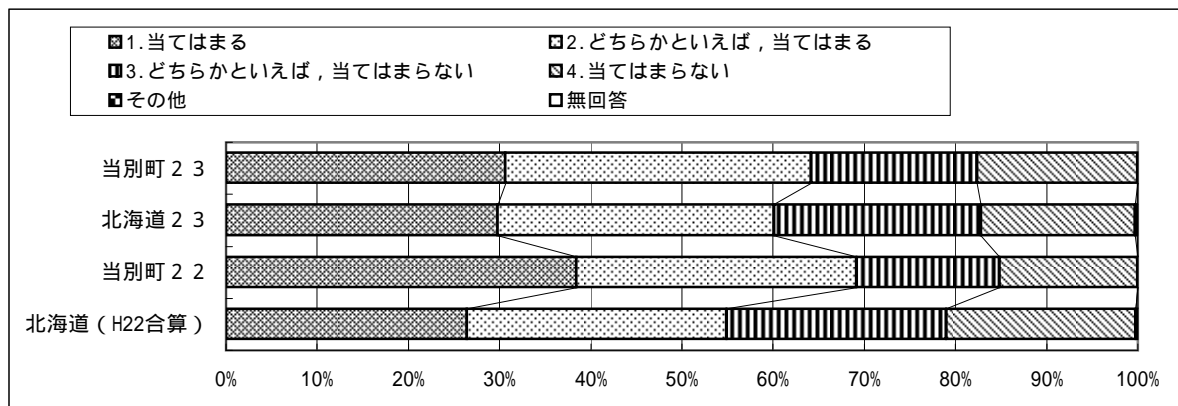
(6) 社会に対する興味関心・意欲について

「新聞・テレビなどのニュース」に関心がある当別町児童の割合は22.9%で、全道より2.9ポイント低い。
 「今住んでいる地域の行事」に参加している当別町児童の割合は30.6%で、全道より0.8ポイント高い。
 「総合的な学習」が好きな当別町児童の割合は35.6%で、全道より8.3ポイント低い。

質問：新聞やテレビのニュースに関心があります



質問：今住んでいる地域の行事に参加している



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

新聞やテレビのニュースに関心のある児童の方が正答率が高い傾向にある。
 「総合的な学習の時間」の授業で、新しいことが発見できると思っている児童の方が正答率が高い傾向にある。
 今住んでいる地域への関心が高い児童の方が正答率が高い傾向にある。

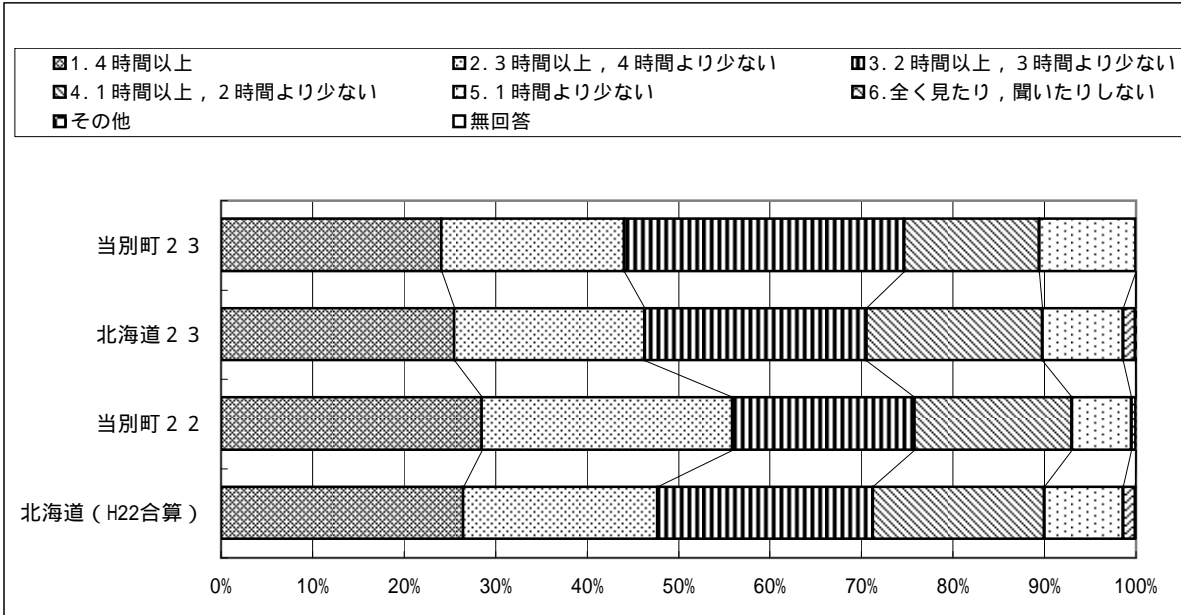
< 考 察 >

今住んでいる地域に対する「郷土愛」が当別町6年児童は、全道とほぼ同じ傾向にある。また「総合的な学習」すなわち「活用型・探求型学習」を好む割合が昨年より低くなっている。したがって、社会に対する興味関心を高めることと合わせて、「自ら課題を見つけ、自ら解決していく」力を身に付けさせることが一層大切となってくる。

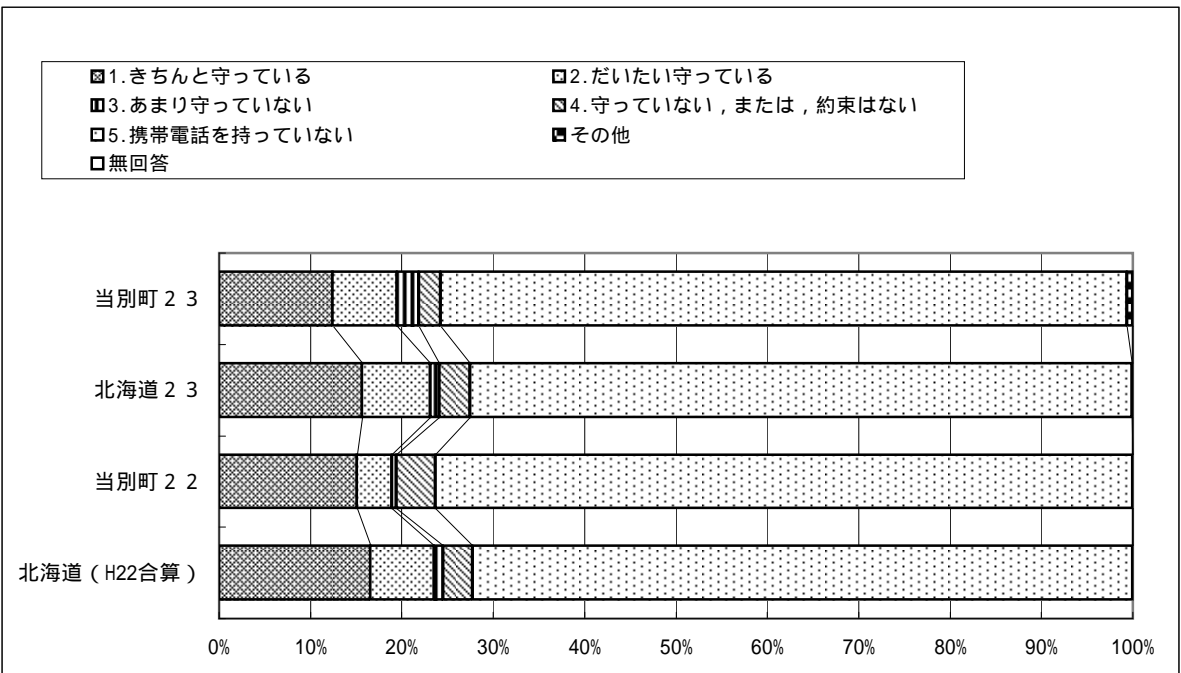
(6) テレビ・ゲーム・インターネット・携帯電話について

「一日あたり2時間以上、テレビ・ビデオ・DVDを見たり聞いたりする」当別町児童の割合は74.7%で、全道より4.1ポイント高い。
 「一日あたり1時間以上、テレビゲームをする」当別町児童の割合は59.3%で、全道より5ポイント高い。
 「携帯電話の使い方について」、家の人と約束したことを守っている当別町児童の割合は12.4%で、全道より3.2ポイント低い。

質問：一日に、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする時間



質問：携帯電話の使い方について家の人と約束したことを守っている



< 考 察 >

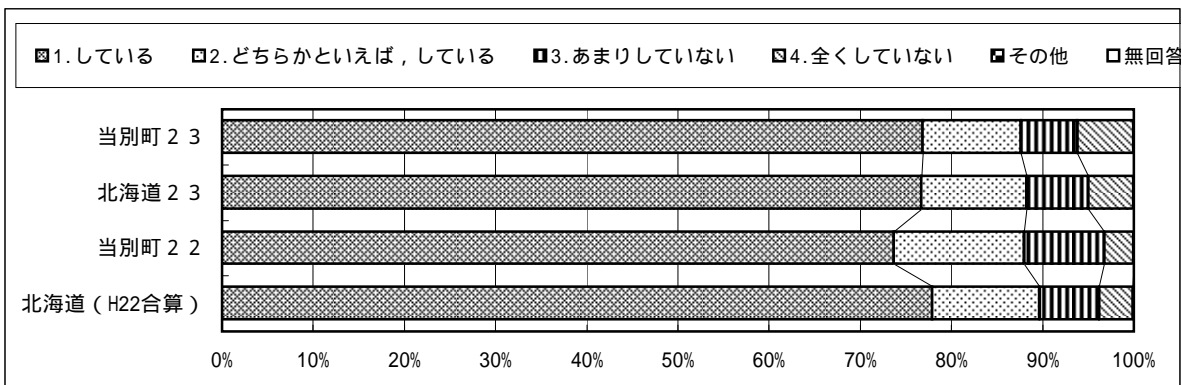
「ゲームをする時間」や「携帯電話の使い方の約束を守っている」割合については、当別町6年児童は、全道よりも課題は多く、昨年より数値が低くなっている。この「テレビやゲーム・携帯電話にかかわる時間」などと「家庭学習時間」とは表裏一体の関係にある。したがって、「基本的な生活習慣の確立」が「自ら学ぶ子」につながり、「健全なる生活」の確立が「賢い子ども・強靱なる子ども」につながることを、家庭に啓発・発信していく取組に今後とも力を入れる必要があるものと思われる。

2 , 中学校における生徒質問紙調査の結果

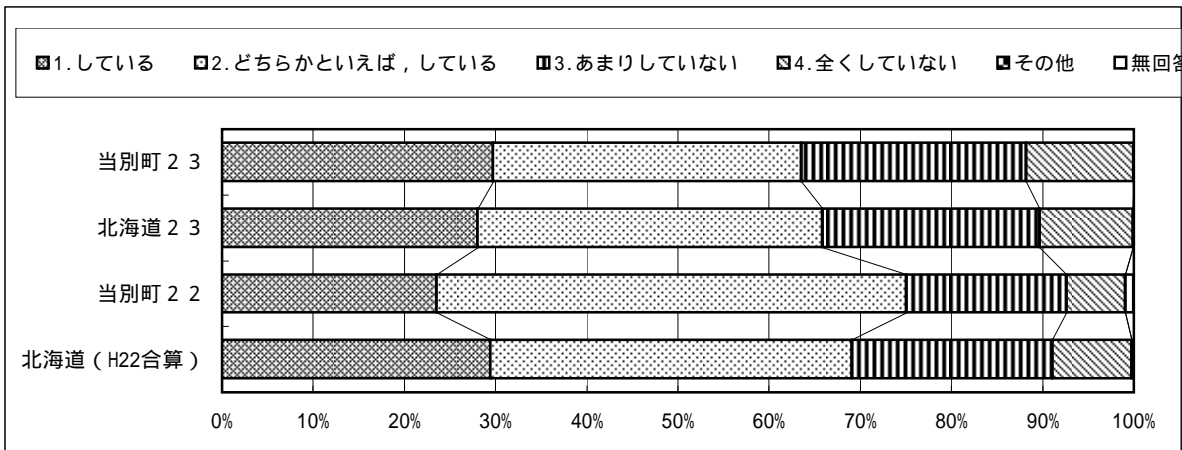
(1) 基本的な生活習慣について

「学校に持っていくものを前日か、その日の朝に確かめている」当別町生徒の割合は76.9%で、全道より0.3ポイント高い。
 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」当別町生徒の割合は29.7%で、全道より1.7ポイント高い。
 「毎日同じくらいの時刻に起きている」当別町生徒の割合は64.6%で、全道より8.4ポイント高い。

質問：学校に持っていくものを、前日かその日の朝に確かめている



質問：毎日、同じくらいの時刻に寝ている



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

事前に持ち物を確認する生徒の方が、正答率が高い傾向にある。
 規則正しく決まった時刻に寝起きしている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。

< 考 察 >

今年度当別町生徒の基本的な生活習慣は昨年よりも改善傾向にあり、全道より数値は上回っている。規則正しい生活の確立は学校と家庭の両者の取組が大切であり、今後も力を入れる必要がある。

基本的な生活習慣を身に付けさせ、学力向上を図っていくために今後も「早寝・早起き・朝ごはん」運動を家庭と連携して進めていくことが重要と思われる。

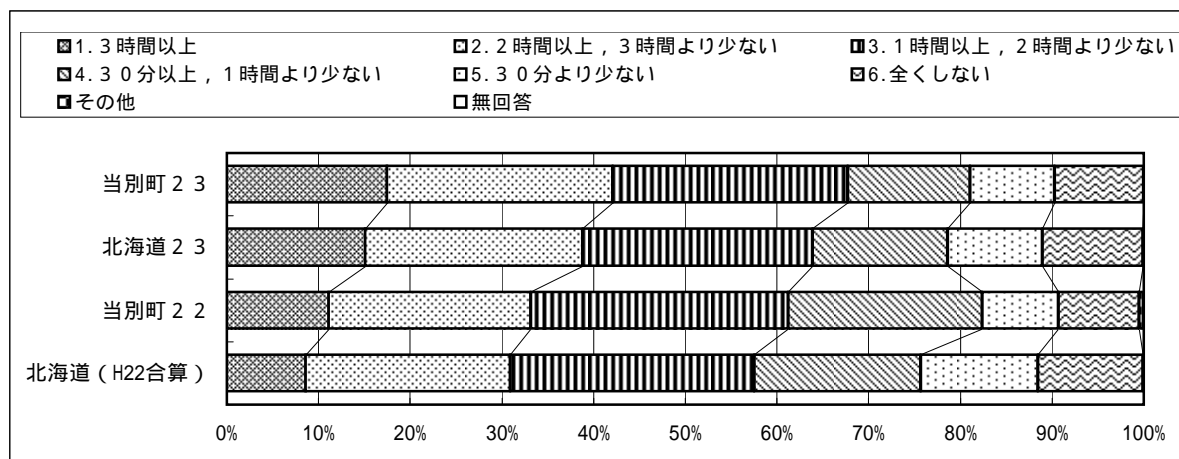
(2) 家庭学習について

「普段、家で1時間以上勉強している」当別町生徒の割合は67.6%で、全道より3.7ポイント高い。

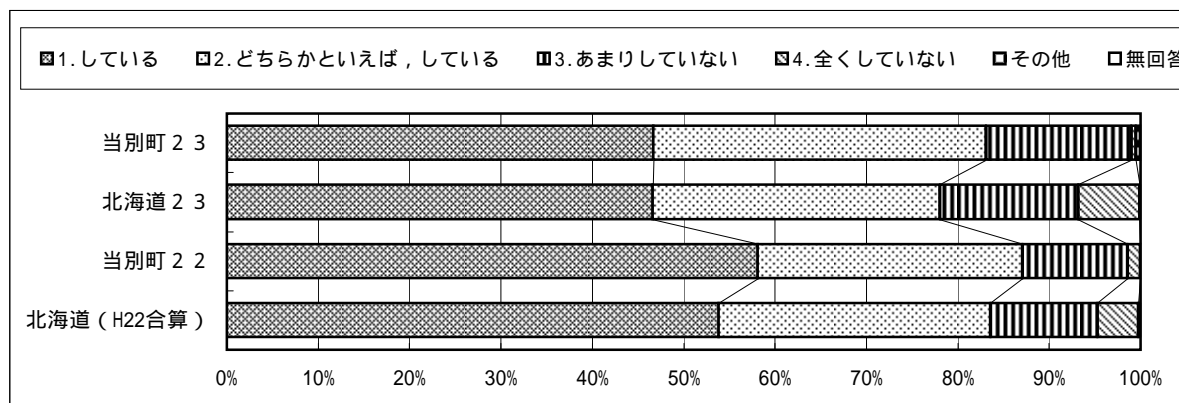
「家で学校の宿題をしている」当別町生徒の割合は46.6%で、全道より0.1ポイント高い。

「テストで間違えた問題を後で勉強している」当別町生徒の割合は19.5%で、全道より1.1ポイント高い。

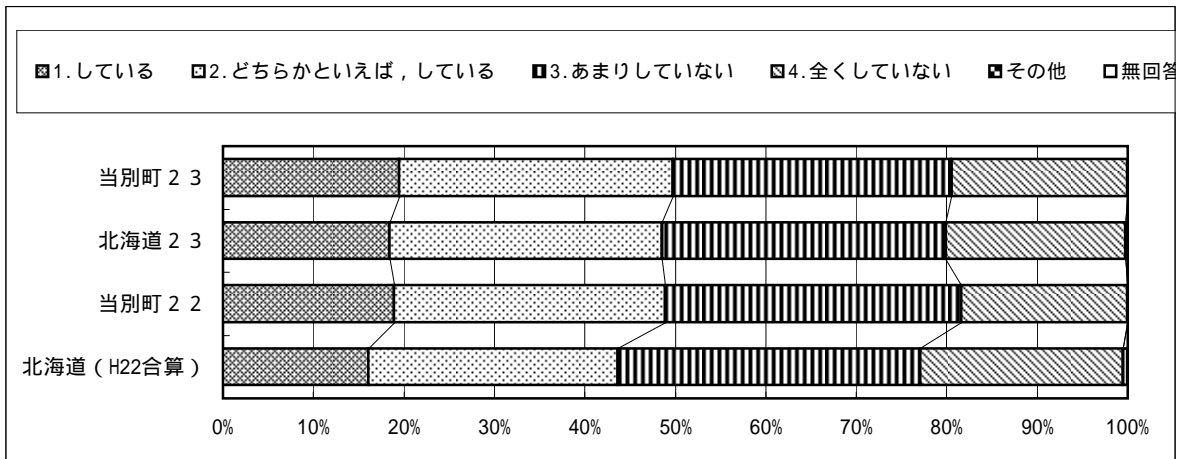
質問：普段、家で1時間以上勉強している



質問：家で、学校の宿題をしている



質問：家で、テストで間違えた問題を勉強している



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

自ら学習計画を立てる生徒の方が、正答率が高い傾向にある。
 家で学校の宿題をしている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。
 学校の授業の予習・復習をしている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。

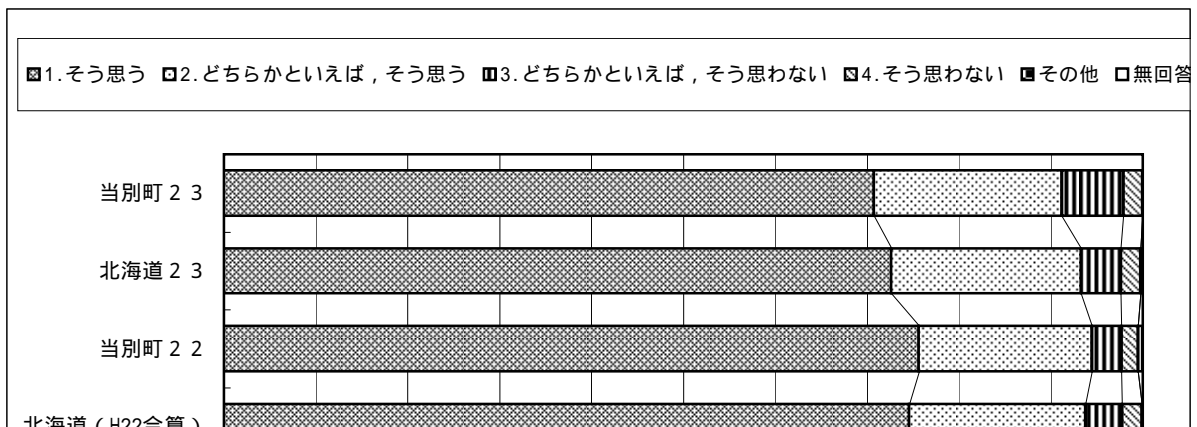
< 考 察 >

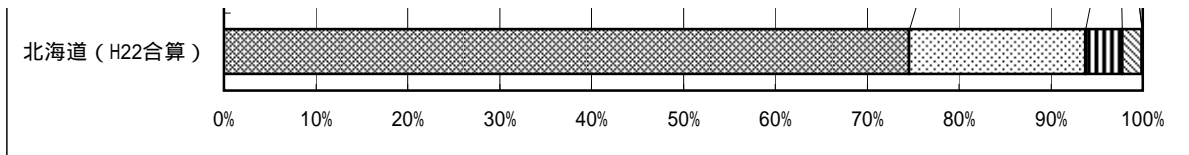
今年度の当別町生徒は、家庭学習時間の項目で大きな改善が見られ、成果となって表れている。「学ぶ習慣を身に付ける」ことは、学力向上には欠かすことができない要素であり、今後も更なる取組が重要となってくる。

(3) 学校生活について

「学校で友達に会うのは楽しいと思う」当別町生徒の割合は70.8%で、全道より1.8ポイント低く、昨年よりも数値は低くなっている。

質問：学校で友達に会うのは楽しい





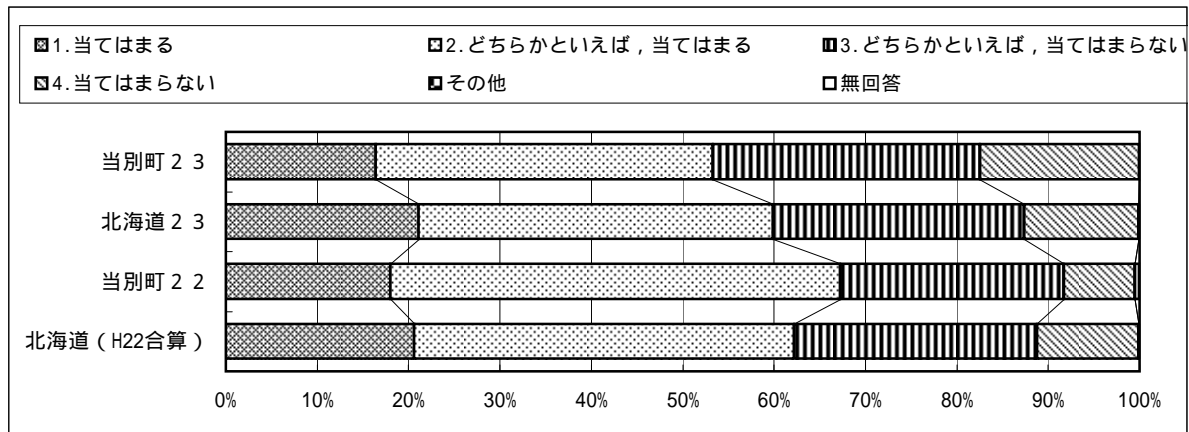
< 考 察 >

今年度当別町生徒の「学校で友達に会うのは楽しい」の割合は、ほぼ全道と同程度であるがやや低く、町内でも昨年より低い。楽しい学校・分かる授業は、子どもの学習意欲を高めることとは切り離せない要因であるので、生徒が登校することを待ち遠しく思うような、支持的な学級・学年づくりに一層取り組むことが大切と思われる。

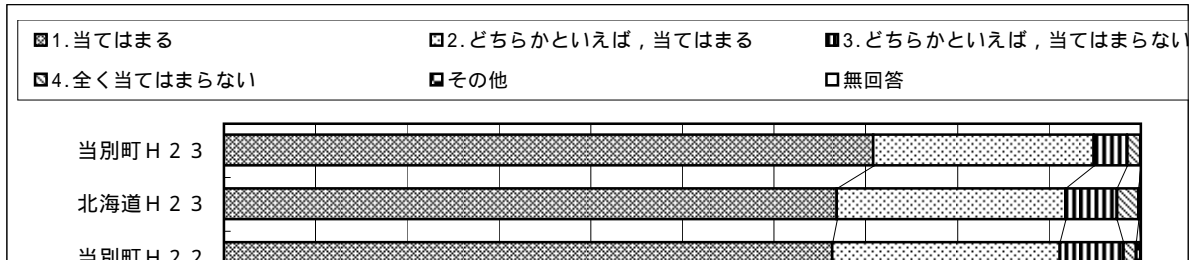
(4) 自尊意識・規範意識について

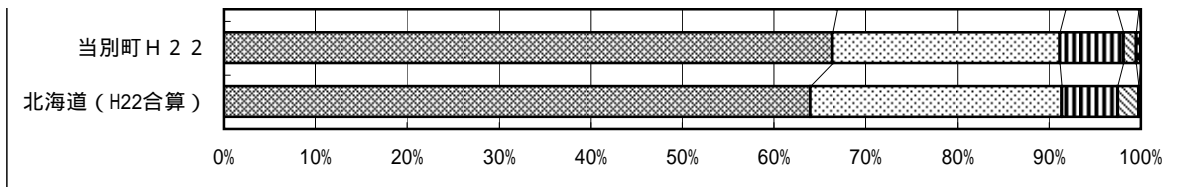
「自分には良いところがある」当別町生徒の割合は16.4%で、全道より4.7ポイント低い。
 「将来の夢や目標を持っている」当別町生徒の割合は44.1%で、全道より2.2ポイント低い。
 「学校の規則を守っている」当別町生徒の割合は49.2%で、全道より1.6ポイント高い。
 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」当別町生徒の割合は68.2%で、全道より4ポイント高い。
 「人の役に立つ人間になりたいと思う」当別町生徒の割合は70.8%で、全道より4ポイント高い。

質問：自分には良いところがある

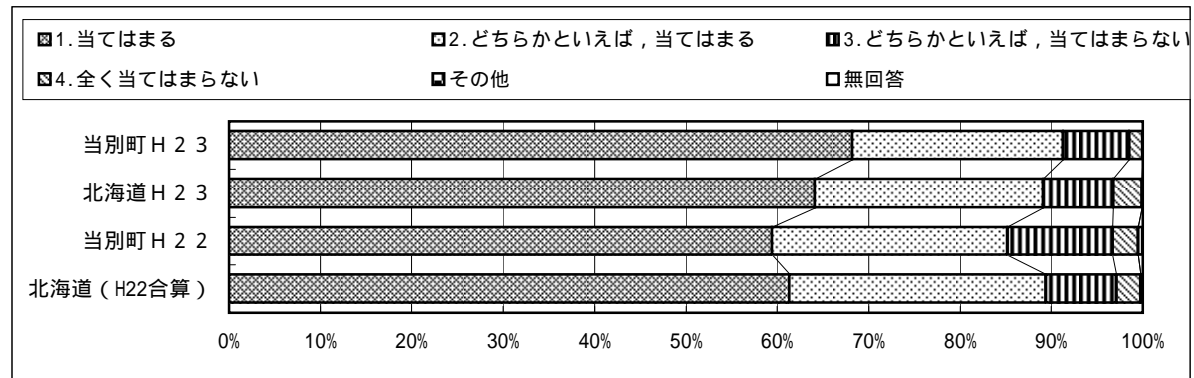


質問：人の役に立つ人間になりたい





質問：いじめは、どんな理由があってもいけない



全国集計において質問紙調査の結果と各教科の正答率との間に相関関係が見られた項目

- 学校の規則を守っている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。
- いじめはいけないことだと思う生徒の方が、正答率が高い傾向にある。
- 将来の夢や目標を持っている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。
- 人の役に立ちたいと思っている生徒の方が、正答率が高い傾向にある。

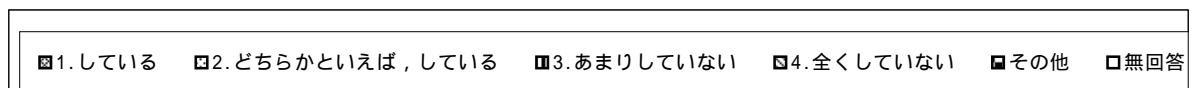
< 考 察 >

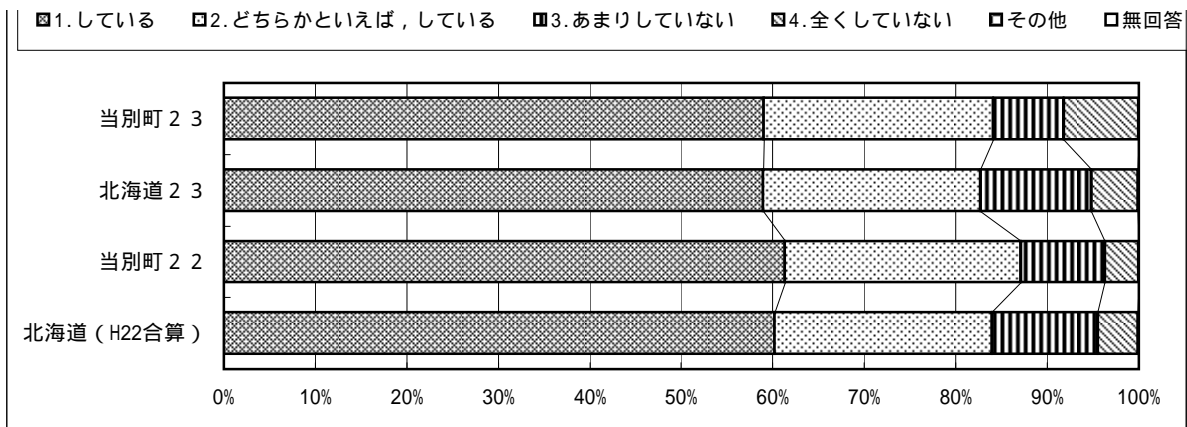
今年度当別町の生徒は、「いじめは、どんな理由があってもいけない」「学校の規則を守っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」の割合は、全道を上回ってはいるが「自分には良いところがある」「将来への夢」の項目には課題が残る。
したがって、生徒一人一人の長所を認め、自信を持たせるような多様な場面を設定したり、「キャリア教育」や「人権尊重の教育」などを充実させたり、生徒に目的意識・自尊意識をしっかりと身に付けさせることが大切と思われる。

(5) 家族とのコミュニケーションについて

「普段、夕食を一緒に食べている」当別町生徒の割合は59.0%で、全道より0.1ポイント高い。
「家の手伝いをする」当別町生徒の割合は16.9%で、全道より4.5ポイント低い。

質問：普段、夕食を一緒に食べている





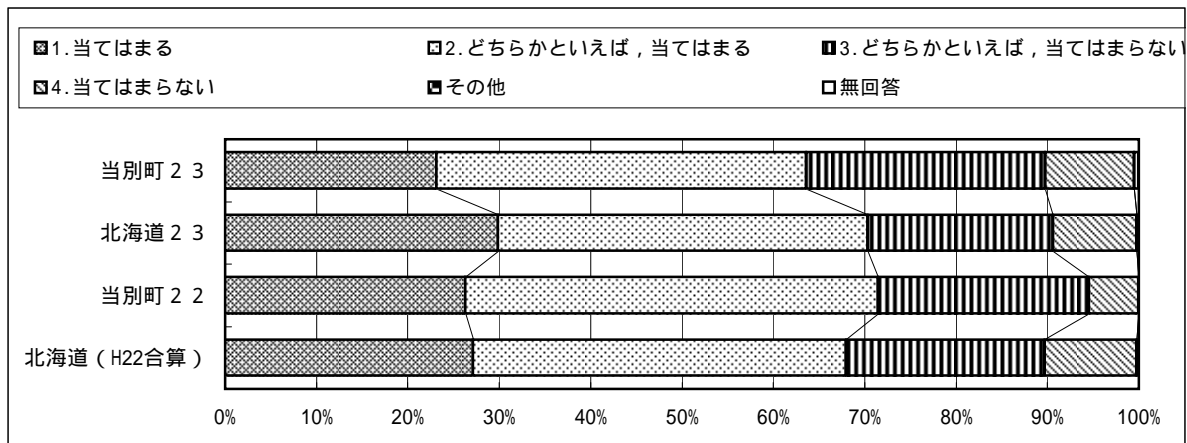
< 考 察 >

今年度の当別町生徒は「家族と食事を一緒に取る」割合が全道とほぼ同程度だが、「家の手伝いをする」割合は全道より低くなっている。中学生時代という精神的に不安定な思春期段階において家族との関係や安定した家庭生活は、何よりも重大な要素である。したがって今後とも、円滑な家族間のコミュニケーションが図られるよう、家庭への啓発が大切となってくる。

(6) 社会に対する興味・関心について

「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」当別町生徒の割合は29.7%で、全道より5ポイント高い。
 「今住んでいる地域の行事に参加している」当別町生徒の割合は12.3%で、全道より0.5ポイント高い。
 「総合的な学習が好きな」当別町生徒の割合は23.1%で、全道より6.7ポイント低い。

質問：総合的な学習の勉強は好き



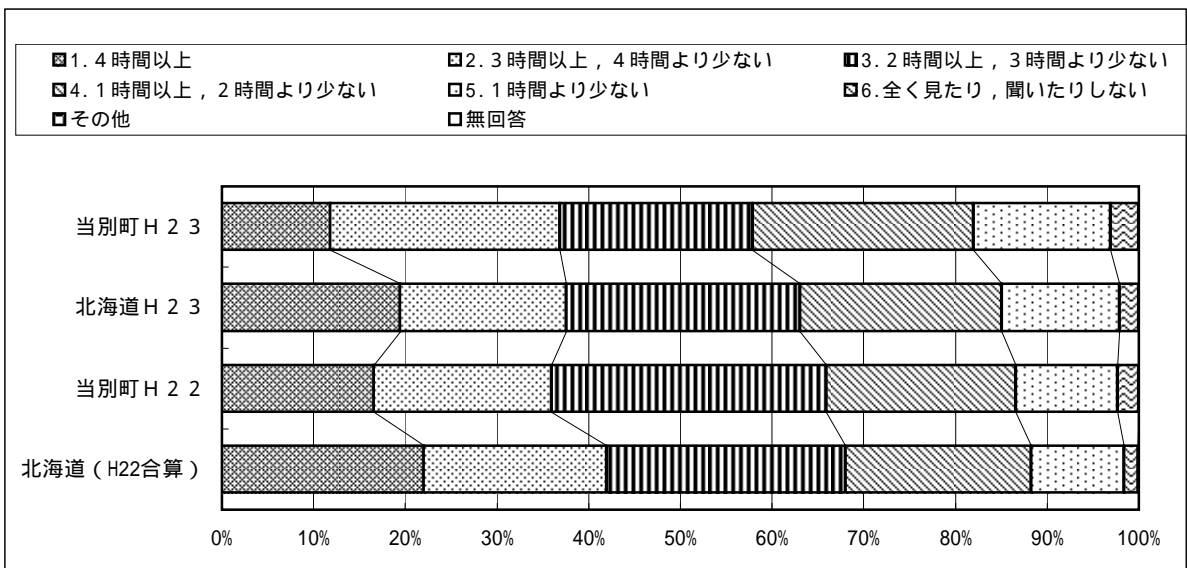
< 考 察 >

「新聞・テレビニュースへの関心」や「地域への関心」は今年度も当別町生徒は全道よりも高い傾向にあるが、総合的な学習（活用型・探求型学習）が好きな割合は低くなっている。
 中学生時代は興味関心が激増する時期であるので、生徒の社会事象への目を広げさせ、興味・関心を一層高めることが大切である。

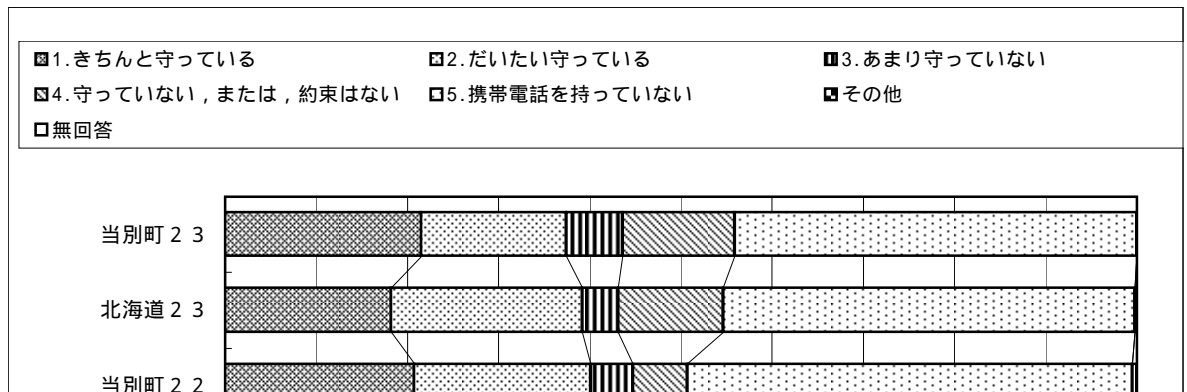
(7) テレビ・ゲーム・インターネット、携帯電話について

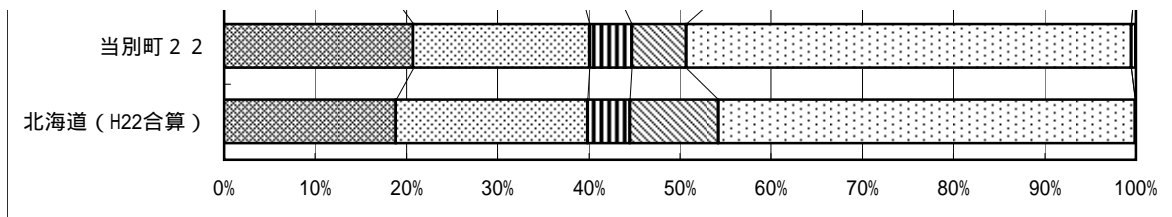
「普段一日当たり2時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする」当別町生徒の割合は57.9%で、道より5.1ポイント低い。
 「普段一日当たり1時間以上テレビゲームをする」当別町生徒の割合は43.6%で、全道より5.3ポイント低い。
 「携帯電話の使い方について家の人と約束したことを守っている」当別町生徒の割合は21.5%で、全道より3.3ポイント高い。

質問：普段一日当たりどれくらいテレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか



質問：携帯電話の使い方について家の人と約束したことを守っている





< 考 察 >

当別町生徒のテレビ・ゲームに関する状況は、昨年引き続き課題であるが、改善傾向が進んできている。「テレビ・ビデオの視聴時間」は昨年よりかなり少なくなっている。「携帯電話の使用」についても、各学校の取組が着実に浸透してきているように思われる。

これら項目の改善は、学力向上・学びの習慣づくりと密接に関係しているので、これからも家庭・関係機関と継続した連携を図っていく必要があると思われる。

3. 学校質問紙に関する調査結果

(1) 学習態度

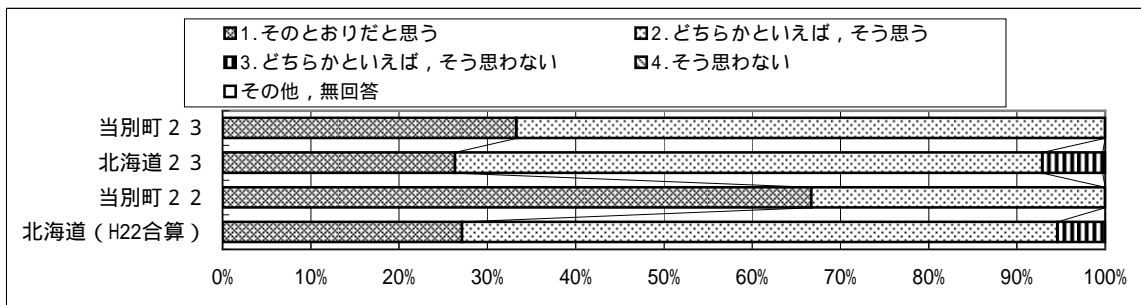
児童生徒が熱意を持って勉強していると思っている学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と比較して7.1ポイント、高い。

中学校調査においては今年度は100.0%で、全道と比較して10.1ポイント高い。

また、前年度と比較して、小学校は「その通りだと思う」が減り・中学校は「どちらかといえばそう思わない」が増えた。

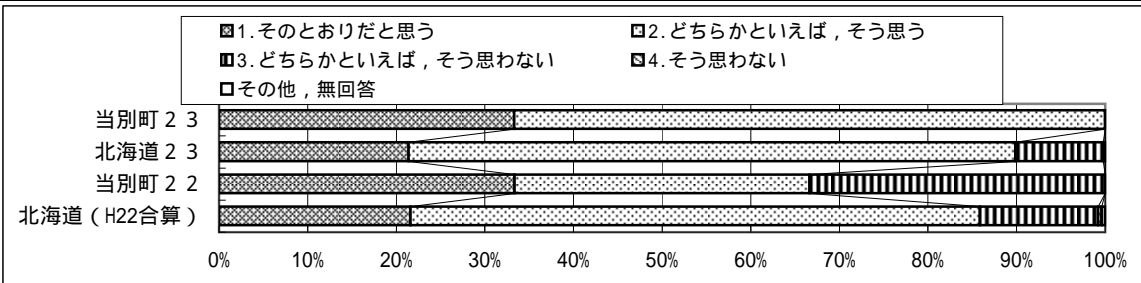
小学校

質問番号	質問事項									
(10)	児童は、熱意をもって勉強していると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	26.3	66.5	6.8	0.3						0.0
当別町 2 2	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	27.1	67.4	5.4	0.0						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(10)	生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	21.4	68.5	9.9	0.2						0.0
当別町 2 2	33.3	33.3	33.3	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	21.6	64.2	13.3	0.4						0.4



【考察】

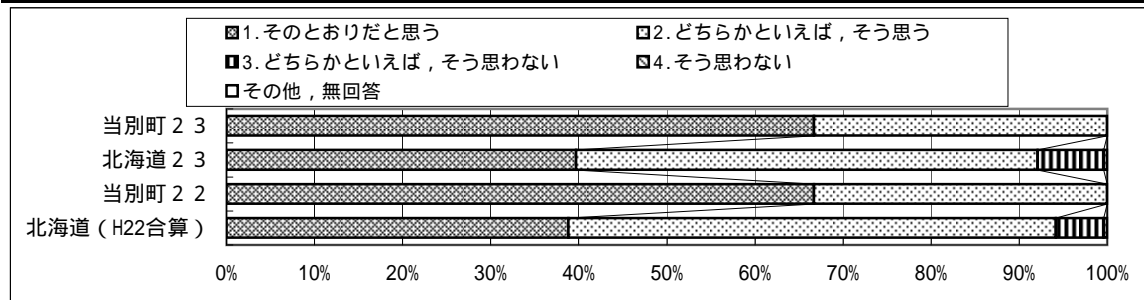
小学校では、熱意を持って勉強していると思っている学校の割合は、全道よりも高いが、町としては昨年よりも下回った。中学校では、昨年とほぼ同様の傾向である。今後も児童生徒が熱意をもって勉強に取り組むように「分かる授業の構築」を一層図っていくことが望まれる。

授業中に私語が少なく、落ち着いていると思っている学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と比較して7.9ポイント高い。中学校調査においても100.0%で、全道と比較して4.7ポイント高い。

また、前年度と比較して、当別町の小・中学校は、前年度と同様の数値で、落ち着いて学習している。

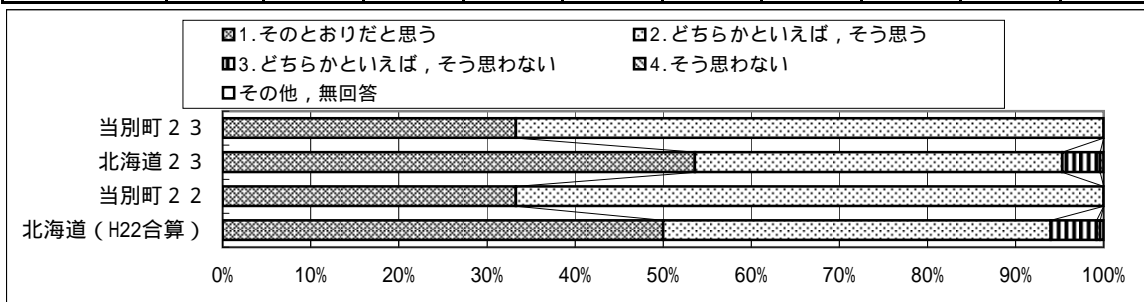
小学校

質問番号	質問事項									
(11)	児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	39.7	52.4	7.5	0.4						0.0
当別町 2 2	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	38.8	55.3	5.4	0.4						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(11)	生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	53.6	41.7	4.3	0.4						0.0
当別町 2 2	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	50.0	44.0	5.2	0.4						0.4



【考察】

授業中に「私語が少なく落ち着いて勉強している」と思っている当別町の学校の割合は、全道と比較して小・中学校とも上回っている。「規律ある学習」は学力向上の基本になるもので、今後とも落ち着いた授業・授業に集中した児童生徒の実現に取り組んでいくことが大切である。

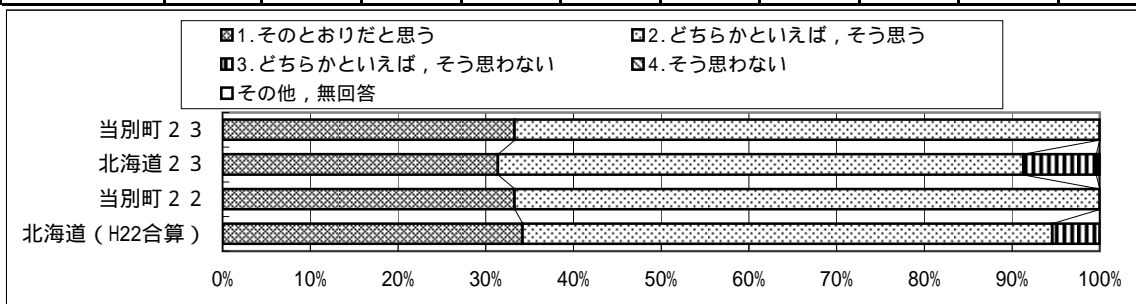
児童生徒が礼儀正しいと思っている学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と比較して8.6ポイント高い。

中学校調査においても100.0%で、全道と比較して5.4ポイント高い。

また前年度と比較して、当別町の児童生徒の礼儀正しさは、前年度と同様の傾向を維持している。

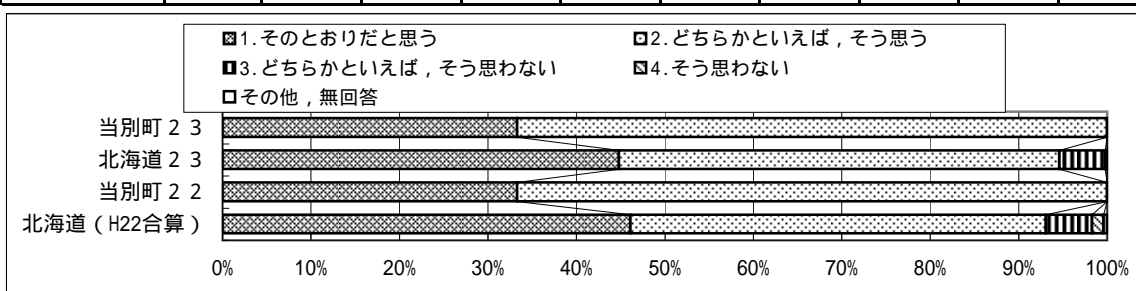
小学校

質問番号	質問事項									
(12)	児童は、礼儀正しいと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	31.4	59.9	8.3	0.3						0.1
当別町 2 2	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	34.2	60.4	5.4	0.0						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(12)	生徒は、礼儀正しいと思いますか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	44.8	49.8	5.2	0.2						0.0
当別町 2 2	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	46.1	47.0	5.2	1.3						0.4



【考察】

児童生徒が礼儀正しいと思っている学校の割合は、小・中学校とも昨年同様の傾向を維持している。このことから、当別町の小・中学校が一定の落ち着きをもった学校生活ができていると考えることができる。

より良い人間関係をつくる上で、「あいさつ」「ていねいな言葉遣い」などは、大切なことであり、今後もあらゆる教育活動の場面で家庭と協力して、意図的に指導することが大切である。

(2) 学力向上に向けた取組

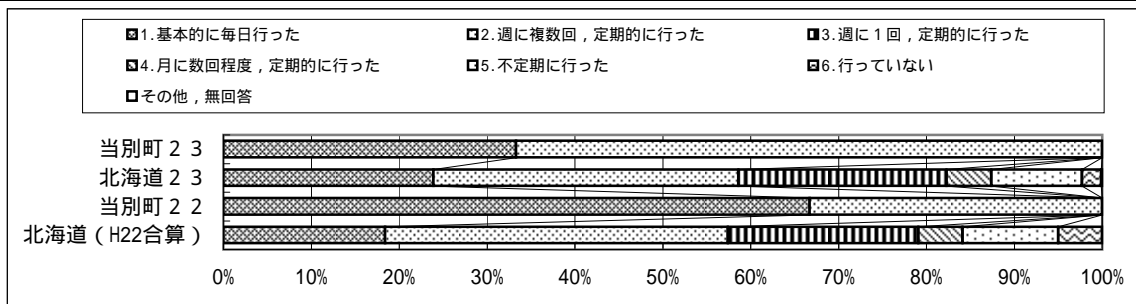
「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と比較して2.3ポイント高い。

中学校調査においても今年度は100.0%で、全道と比較して15.6ポイント高い。

前年度との比較では、小学校で「毎日実施」を「週定期実施」への変更が1校、中学校で「週定期実施」を「月定期実施」への変更が1校増えた。

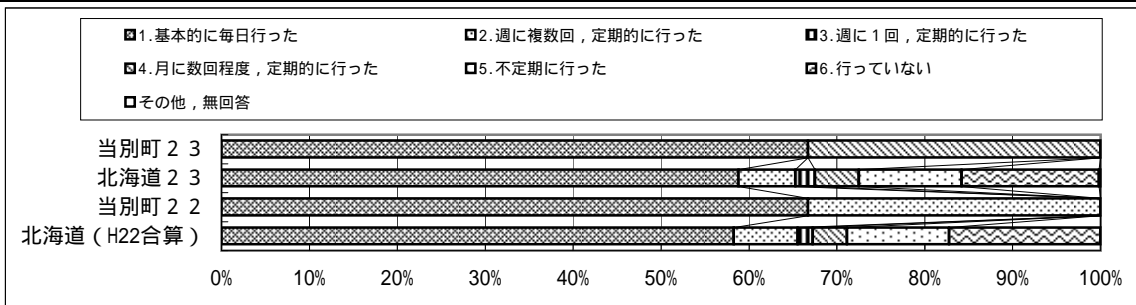
小学校

質問番号	質問事項									
(18)	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0				0.0
北海道 2 3	23.9	34.7	23.7	5.1	10.3	2.2				0.1
当別町 2 2	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0				0.0
北海道 (H22合算)	18.4	39.0	21.7	5.0	10.9	5.0				0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(18)	「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0				0.0
北海道 2 3	58.8	6.5	2.2	5.0	11.7	15.6				0.2
当別町 2 2	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0				0.0
北海道 (H22合算)	58.2	7.3	1.7	3.9	11.6	17.2				0.0



【考察】

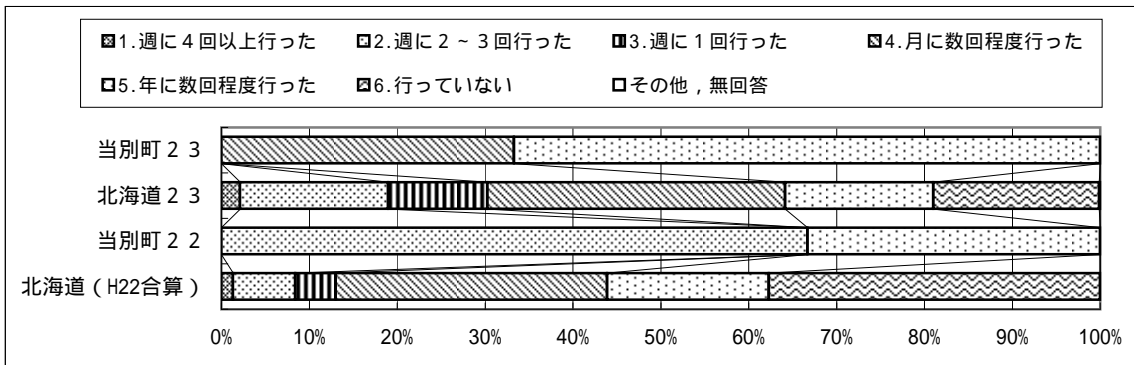
昨年に引き続き今年度も全小中学校が「一斉読書の時間」を設置して、読書習慣の定着を進めている。ただ一部の読書時間をドリル等の時間に転用して、基礎学力向上に取り組む学校が出てきた。今後も社会教育・家庭教育との連携を継続して、読書活動の充実を図ることは大切である。

(3) 学習支援

放課後を利用した補足的な学習サポートを実施している学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と比較して18.9ポイント高い。
 中学校調査においては100%で、全道と比較して7.0ポイント高い。

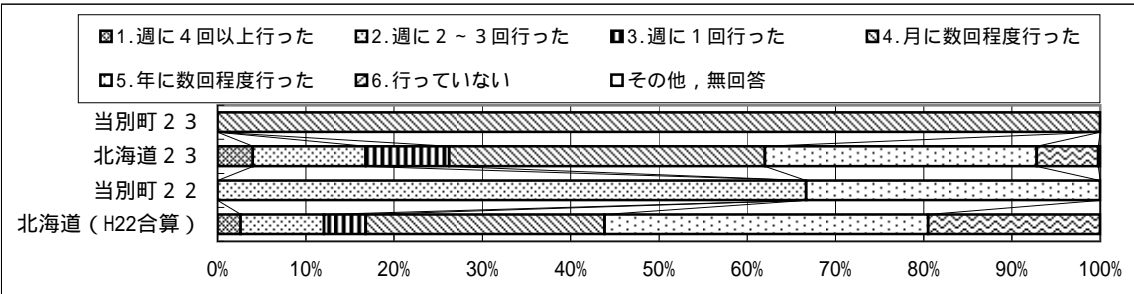
小学校

質問番号	質問事項									
(20)	放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他, 無回答
当別町 2 3	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0				0.0
北海道 2 3	2.1	16.9	11.3	33.9	16.9	18.9				0.1
当別町 2 2	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0				0.0
北海道 (H22合算)	1.3	7.1	4.6	30.9	18.4	37.7				0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(20)	放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他, 無回答
当別町 2 3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0				0.0
北海道 2 3	4.0	12.8	9.5	35.8	30.8	7.0				0.2
当別町 2 2	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	0.0				0.0
北海道 (H22合算)	2.6	9.5	4.7	27.1	36.7	19.5				0.0



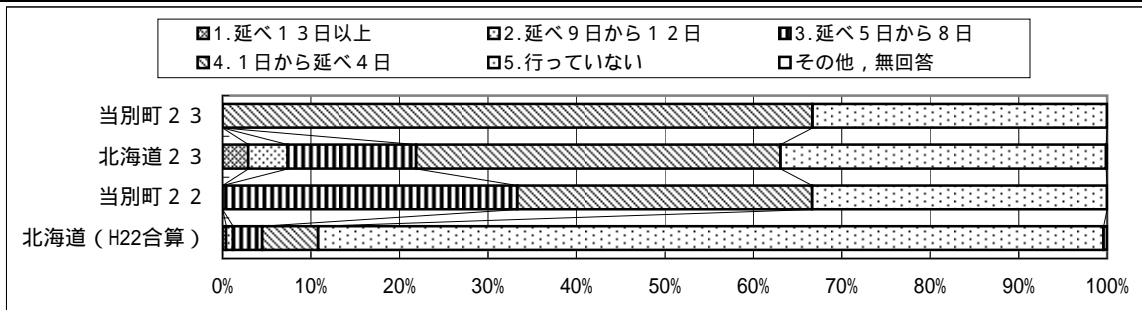
【考察】

当別町は「月に数回」「年に数回」の放課後を利用した補足的な学習に取り組んでいる。スクールバスを利用する児童生徒がどの学校にもおり、全校一斉による実施が困難な要素もある。いろいろな場面を活用して子どもに学びの習慣をつけさせることは重要であり、基礎基本を定着させて今後とも一層、学力向上を図っていくことが、大切である。

長期休業期間を利用した補足的なサポートを実施している学校の割合は、小学校調査においては66.7%で、全道と比較して3.3ポイント高い。
 中学校調査においても当別町は100.0%実施で、全道と比較して11.3ポイント高い。

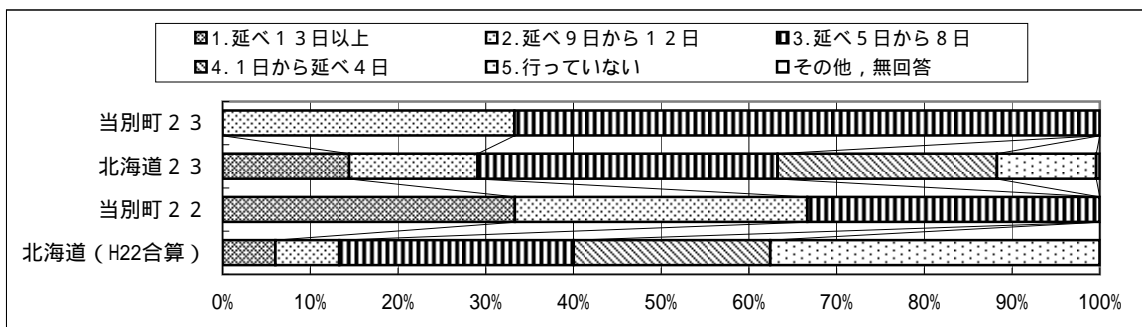
小学校

質問番号	質問事項									
(22)	長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか(長期休業日に実施した日数の累計)									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他, 無回答
当別町 2 3	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3					0.0
北海道 2 3	2.9	4.5	14.5	41.2	36.8					0.1
当別町 2 2	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3					0.0
北海道 (H22合算)	0.4	0.8	3.3	6.3	88.7					0.4



中学校

質問番号	質問事項									
(22)	長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか(長期休業日に実施した日数の累計)									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他, 無回答
当別町 2 3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0					0.0
北海道 2 3	14.4	14.7	34.2	25.0	11.3					0.4
当別町 2 2	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0					0.0
北海道 (H22合算)	6.0	7.3	26.7	22.4	37.5					0.0



【考察】

長期休業を利用した補足的な学習に取り組んでいる学校は、当別町は小・中学校とも実施延べ日数に多少の差はあるものの、昨年同様の割合である。「学ぶ習慣づくり」は、学力向上には欠くことが出来ない要素であり、今後もさらに工夫することが大切である。しかし、当別町は遠距離通学の子どもや冬季期間の厳しい気象条件など実施に配慮すべき要素もあり、子どもたちの安全安心を考慮しながら計画的に実施することが、極めて重要である。

て重要である。

(4) 国語科、算数・数学科の指導法

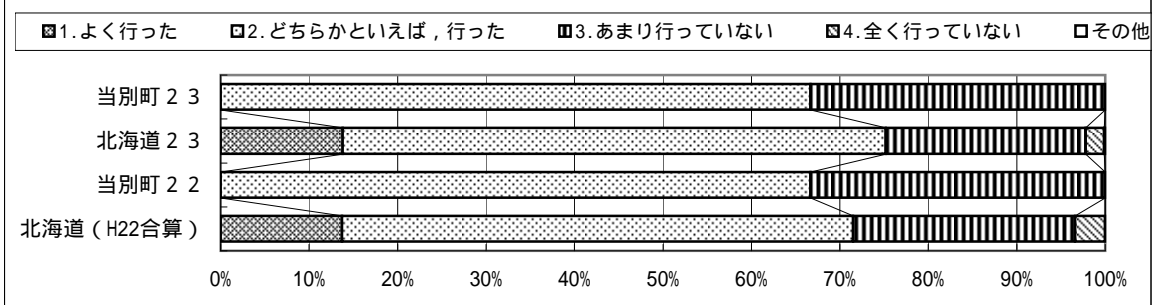
国語の指導として、補充的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と比較して2.1ポイント高い。

中学校調査においても100.0%で、全道と比較して1.3ポイント高い。

また、前年度と比較して、小学校・中学校とも実施率に変動はない。

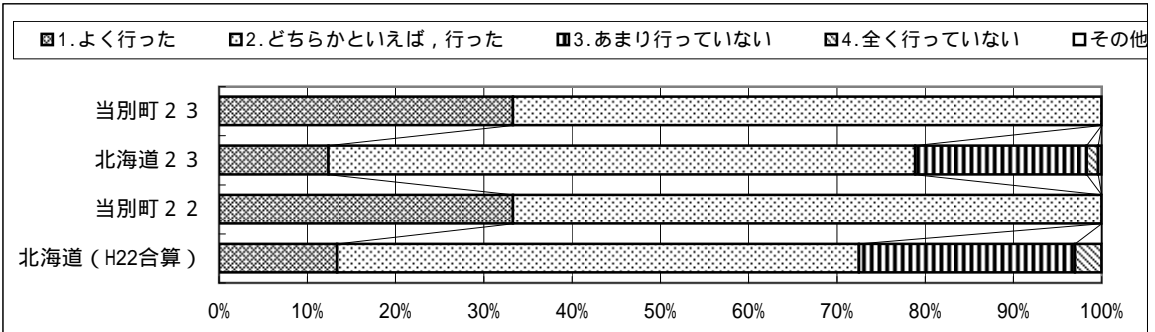
小学校

質問番号	質問事項									
(50)	国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	0.0	66.7	33.3	0.0						0.0
北海道 2 3	13.8	61.5	22.6	2.1						0.1
当別町 2 2	0.0	66.7	33.3	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	13.7	57.8	25.1	3.4						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(50)	国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	12.4	66.5	19.4	1.3						0.4
当別町 2 2	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	13.4	59.1	24.5	3.0						0.0



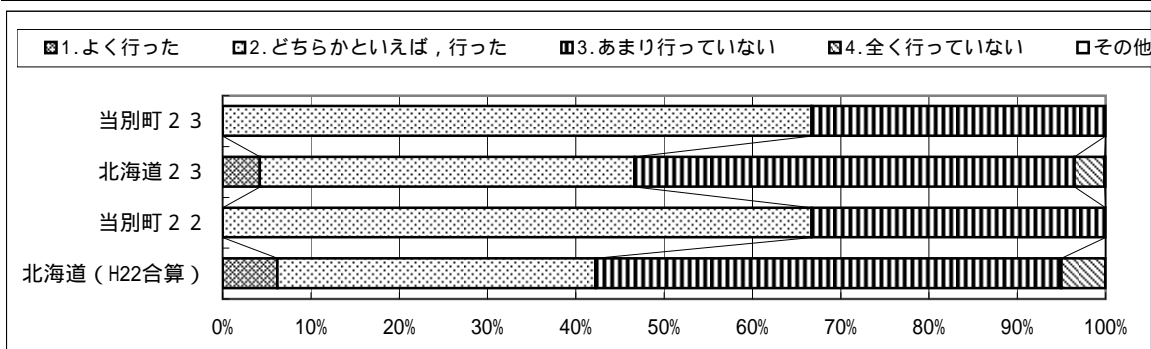
【考察】

小学校・中学校とも当別町は、国語の補充的な指導は、昨年度と同様の取組が行われている。今後とも子ども一人一人の実態に応じた、きめ細かな取組が大切である。

国語の指導として、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と比較して3.4ポイント高い。
 中学校調査においては100.0%で、全道より2.2ポイント高い。

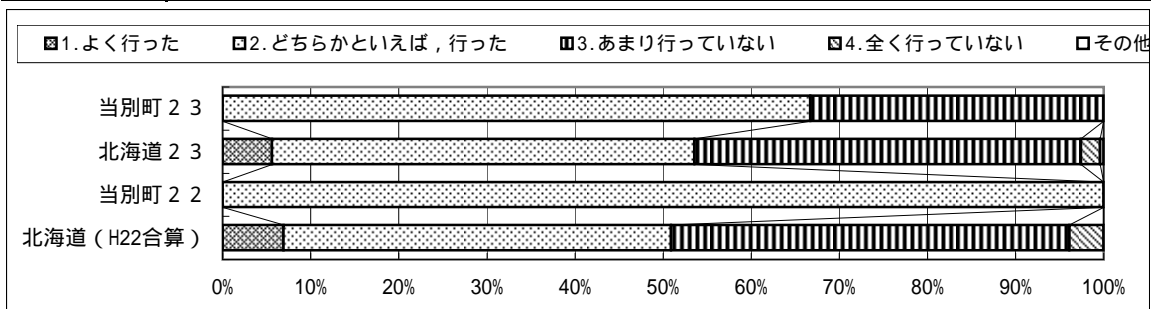
小学校

質問番号	質問事項									
(5 1)	国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	0.0	66.7	33.3	0.0						0.0
北海道 2 3	4.2	42.4	49.8	3.4						0.1
当別町 2 2	0.0	66.7	33.3	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	6.2	36.0	52.7	5.0						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(5 1)	国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	0.0	66.7	33.3	0.0						0.0
北海道 2 3	5.6	48.0	43.9	2.2						0.4
当別町 2 2	0.0	100.0	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	6.9	44.0	45.2	3.9						0.0



【考察】

国語の発展的な指導を行っている当別町の小中学校の割合は、小学校で「どちらかといえば」から「あまりやっていない」に1校変わったが、ほとんど昨年同様の取組である。今後とも言語活動の指導に力を入れて、発展的な指導に積極的に取り組むことは極めて大切である。

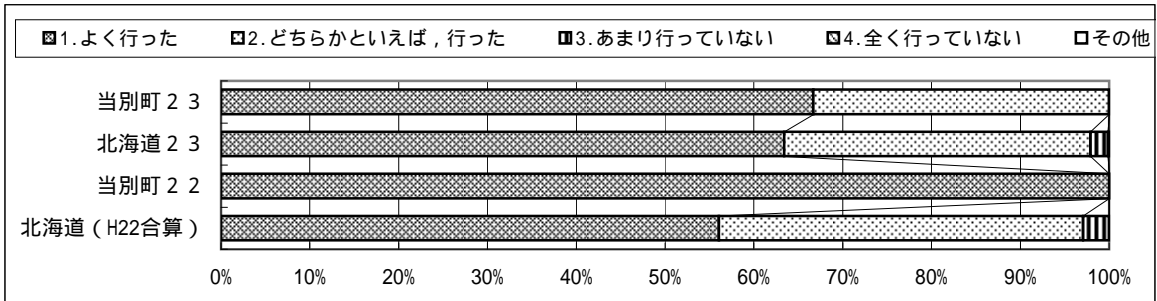
国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)をよく与えた学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と同様である。

中学校調査においては100.0.%で、全道と比較して0.5ポイント高い。

また、前年度と比較して、小学校で「よくやった」から「どちらかといえば」へ1校、中学校は「どちらかといえば」の学校が増えている。

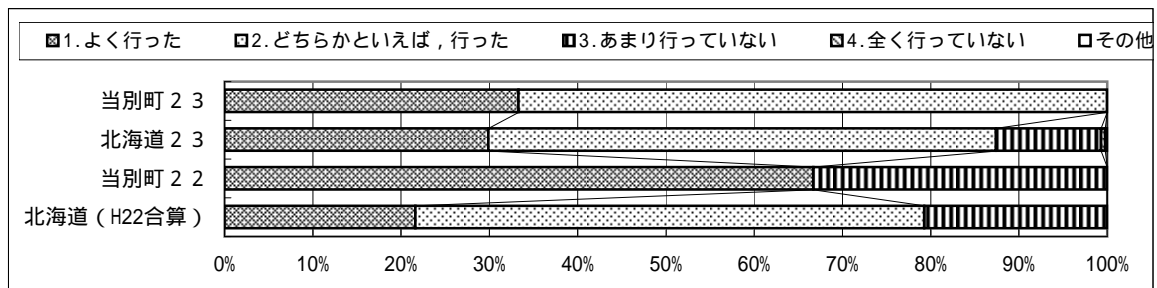
小学校

質問番号	質問事項									
(6 9)	国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他, 無回答
当別町 2 3	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	63.4	34.5	2.0	0.0						0.1
当別町 2 2	100.0	0.0	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	56.0	41.0	2.9	0.0						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(6 7)	国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他, 無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	29.9	57.6	11.9	0.5						0.2
当別町 2 2	66.7	0.0	33.3	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	21.6	57.7	20.7	0.0						0.0



【考察】

子どもに学ぶ習慣を身に付けさせることは現在の最大教育課題であり、最も効果的である。したがって、学校が子どもに宿題を出して家庭学習に取り組ませることに意識して取り組むことが必要な状況である。

次時の授業につながる宿題や子どもの学習意欲を高める取り組みなど、今後とも一層の工夫が大切である。

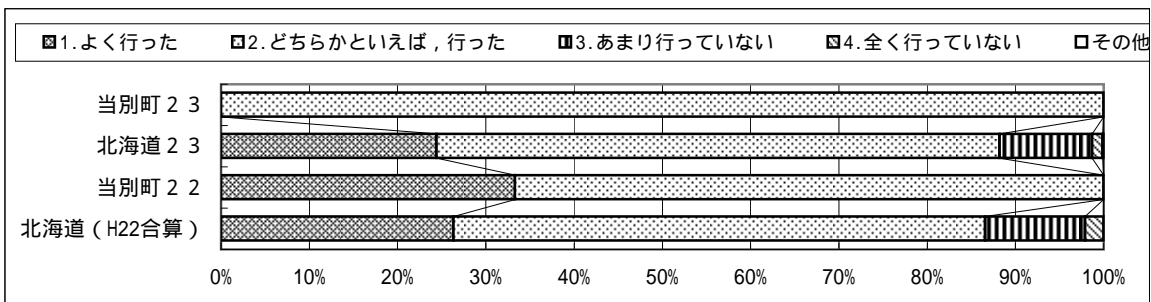
算数・数学の指導として、補的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と比較して1.2ポイント高い。

中学校調査においても100.0%で、全道と比較して0.7ポイント高い。

また、前年度と比較して、小学校は全校が「どちらかといえば」になり、中学校は「どちらかといえば」と「よくやった」が逆転している。

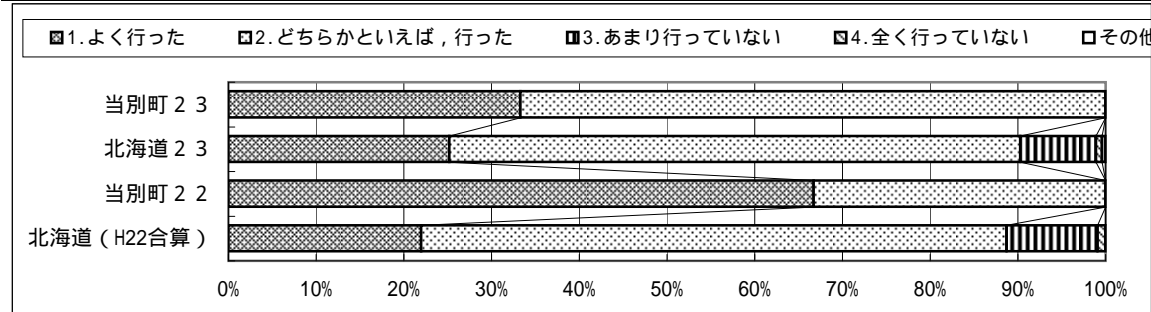
小学校

質問番号	質問事項									
(56)	算数の指導として、補的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	0.0	100.0	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	24.4	63.8	10.5	1.2						0.1
当別町 2 2	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	26.3	60.2	11.3	2.1						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(56)	数学の指導として、補的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	25.2	65.1	8.6	0.7						0.4
当別町 2 2	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	22.0	66.8	10.4	0.9						0.0



【考察】

小学校においても中学校においても、算数・数学の補的な指導を行っている割合は100%で、昨年同様である。今後も系統的に基礎学力を高めるために、継続して中身を工夫した補的な指導が大切である。

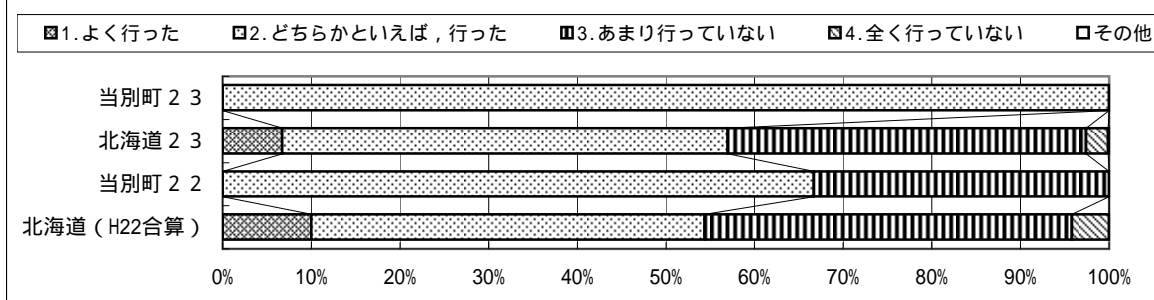
算数・数学の指導として、発展的な学習の指導を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と比較して2.5ポイント高い。

中学校調査においても100.0%で、全道と比較して1.4ポイント高い。

また前年度と比較して、全小学校が「どちらかといえば」に、中学校は「あまりやっていない」が「どちらかといえば」に変わっている。

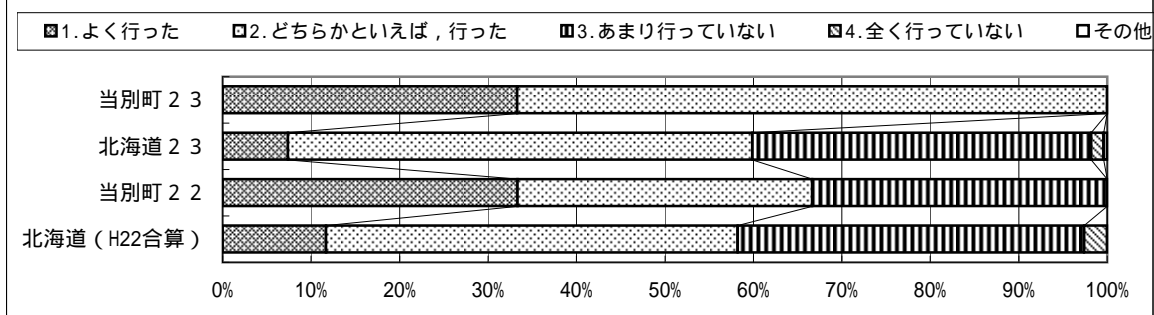
小学校

質問番号	質問事項									
(57)	算数の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	0.0	100.0	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	6.7	50.3	40.4	2.5						0.1
当別町 2 2	0.0	66.7	33.3	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	10.0	44.4	41.4	4.2						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(57)	数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	7.4	52.5	38.3	1.4						0.4
当別町 2 2	33.3	33.3	33.3	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	11.7	46.6	39.2	2.6						0.0



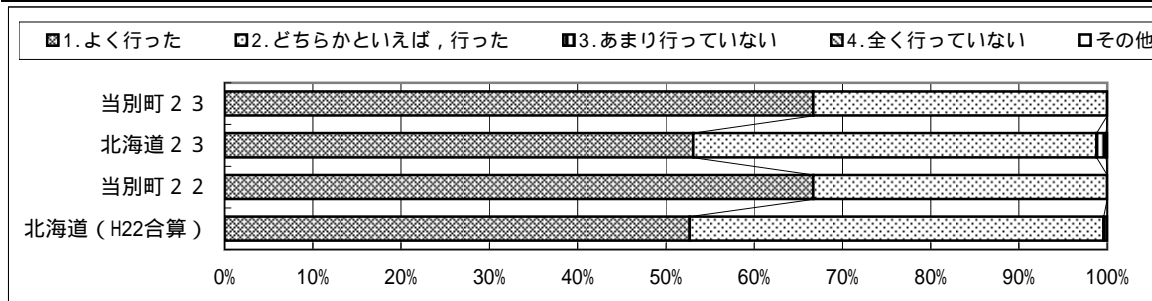
【考察】

昨年度から比べ多少の変更はあるが、当別町の小中学校においては、発展的な指導を行う割合は、ほぼ同程度である。今後も、子どもの実態分析・把握等を行い、発展的な学習を進めていく必要がある。

算数・数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と同程度である。
 中学校調査においても100.0%で、こちらも全道と比較して同程度である。

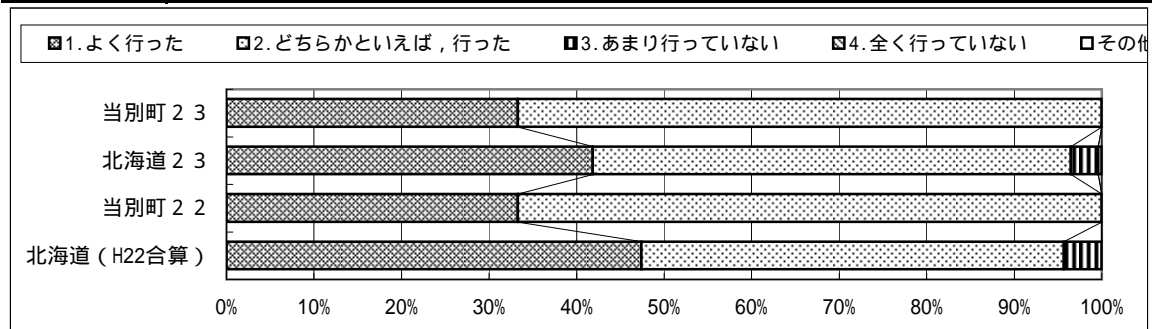
小学校

質問番号	質問事項									
(5 9)	算数の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	53.1	45.7	1.1	0.0						0.1
当別町 2 2	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	52.7	46.9	0.4	0.0						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(5 9)	数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	41.9	54.7	3.1	0.0						0.4
当別町 2 2	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	47.4	48.3	4.3	0.0						0.0



【考察】

小学校・中学校の算数・数学の指導として、計算問題などを繰り返し練習して基礎計算力を高めることは、子どもの持続力・集中力を高めるために大切である。さらに数学的な思考力を養う元になる取り組みでもある。したがって、今後とも継続し、指導内容の工夫を図っていくことが必要である。

(5) 地域の人材の活用

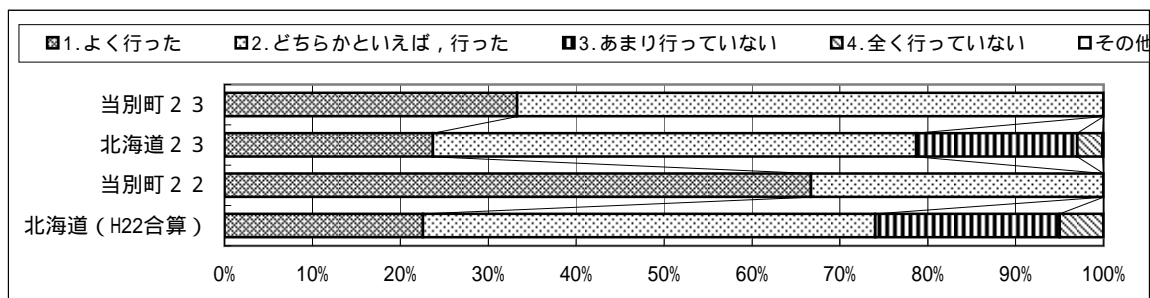
地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と比較して2.9ポイント高い。

中学校調査においても100.0%で、全道と比較して7.9ポイント高い。

また、前年度と比較して、小中学校とも100.0ポイントで取組状況に変わりがない。

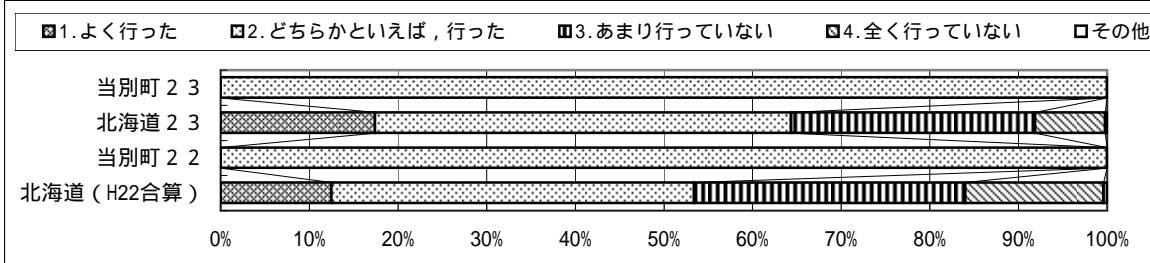
小学校

質問番号	質問事項									
(6 2)	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他, 無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	23.7	54.9	18.3	2.9						0.1
当別町 2 2	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	22.6	51.5	21.0	5.0						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(6 1)	地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他, 無回答
当別町 2 3	0.0	100.0	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	17.4	46.9	27.5	7.9						0.2
当別町 2 2	0.0	100.0	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	12.5	40.9	30.6	15.6						0.4



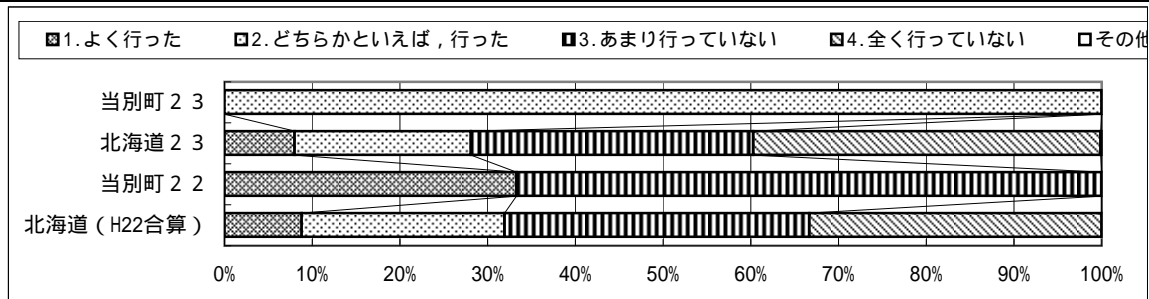
【考察】

当別町の小・中学校において、地域の人材を活用した授業を行っている割合は、昨年同様で、当別町はしっかり定着している状態といえる。したがって今後も、幅広く地域の人材などを活用して、教科の指導だけでなく食育の指導や職場体験学習・総合的な学習の時間、部活動での活用など、範囲を広げていくことが大切である。

ボランティア等による授業サポート(補助)を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と比較して39.6ポイント高い。
 中学校調査においては66.7%で、全道と比較して26.1ポイント高い。

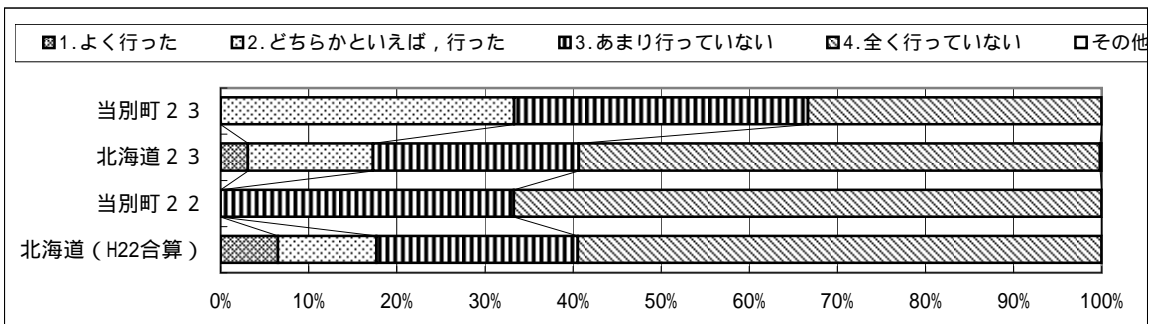
小学校

質問番号	質問事項									
(6 3)	ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他, 無回答
当別町 2 3	0.0	100.0	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	8.0	20.1	32.2	39.6						0.1
当別町 2 2	33.3	0.0	66.7	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	8.8	23.1	34.7	33.3						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(6 2)	ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他, 無回答
当別町 2 3	0.0	33.3	33.3	33.3						0.0
北海道 2 3	3.1	14.2	23.4	59.2						0.2
当別町 2 2	0.0	0.0	33.3	66.7						0.0
北海道 (H22合算)	6.5	11.2	22.9	59.5						0.0



【考察】

当別町の小・中学校においては、それぞれの全体計画の中で着実にボランティア等を活用した教育活動が実施されてきている。学校支援地域本部事業の取り組みなどを中核にして、広く地域の教育力を取り込んだ取組が今後とも望まれる。

(6) 習熟度別少人数指導

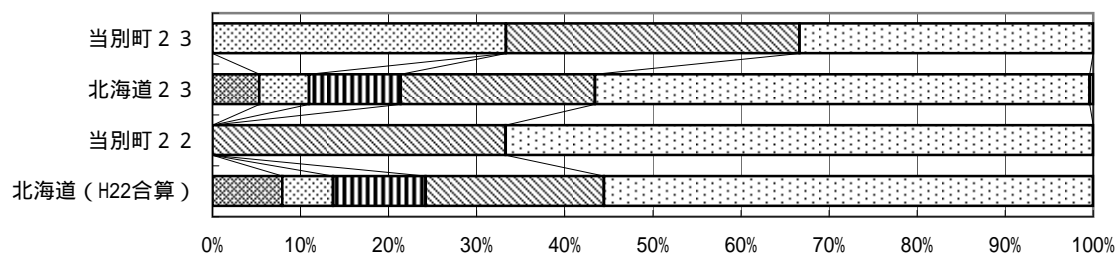
算数・数学の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行っている学校の割合は、小学校調査においては66.7ポイントで、全道と比較して23.3ポイント高い。

中学校調査においては33.3ポイントで、全道と比較して7.7ポイント低い。

小学校

質問番号	質問事項									
(44)	前年度の算数の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3					0.0
北海道 2 3	5.3	5.7	10.4	22.1	56.2					0.4
当別町 2 2	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7					0.0
北海道 (H22合算)	7.9	5.8	10.5	20.2	55.5					0.0

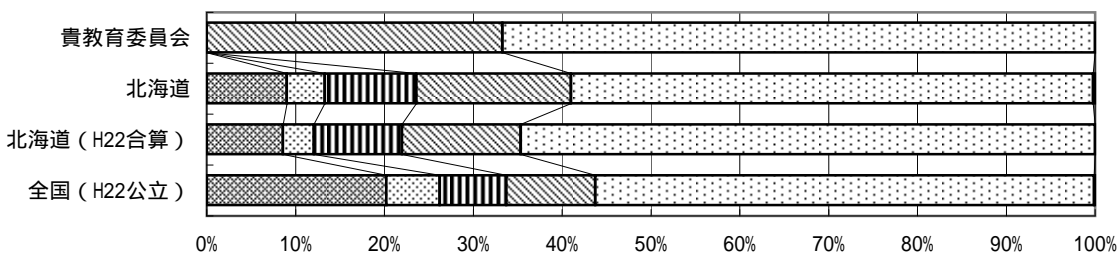
- 1. 年間の授業のうち、おおよそ 3 / 4 以上で行った
- 2. 年間の授業のうち、おおよそ 1 / 2 以上
- 3. 年間の授業のうち、おおよそ 1 / 4 以上、1 / 2 未満で行った
- 4. 年間の授業のうち、おおよそ 1 / 4 未満
- 5. 習熟度別での少人数指導は行っていない
- その他、無回答



中学校

質問番号	質問事項									
(44)	前年度の数学の指導として、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
貴教育委員会	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7					0.0
北海道	9.0	4.3	10.3	17.4	58.8					0.2
北海道 (H22合算)	8.6	3.5	9.9	13.4	64.7					0.0
全国 (H22公立)	20.2	6.0	7.5	10.0	56.1					0.1

- 1. 年間の授業のうち、おおよそ 3 / 4 以上で行った
- 2. 年間の授業のうち、おおよそ 1 / 2 以上
- 3. 年間の授業のうち、おおよそ 1 / 4 以上、1 / 2 未満で行った
- 4. 年間の授業のうち、おおよそ 1 / 4 未満
- 5. 習熟度別での少人数指導は行っていない
- その他、無回答



【考察】

当別町の小中学校において少人数指導を行う割合は、昨年度に比べ一定の進展が見られる。算数・数学指導で、子どもの理解の速さや定着の実態に応じて、きめ細かな指導を進めることは、大変に有効な指導方法であり、今後とも指導体制の工夫を図り学校全

体で進めていくことが大切である。

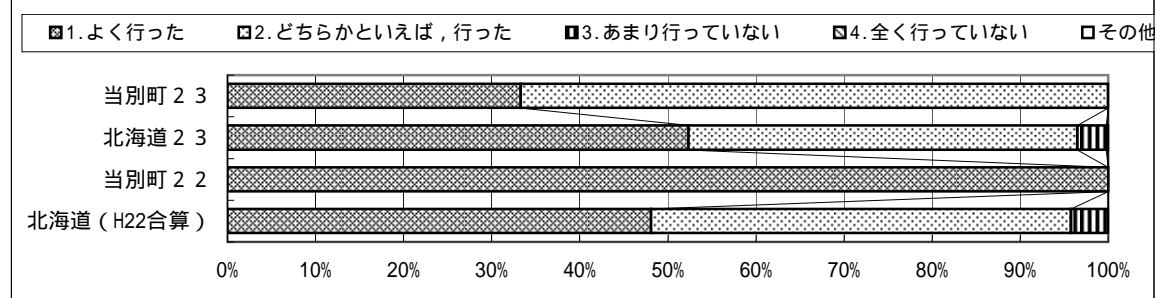
算数・数学の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、指導・評価を行った学校の割合は、小学校調査においては100.0%で、全道と比較してほぼ同程度である。

中学校調査においても100.0%で、全道と比較してほぼ同程度である。

また、前年度と比較して、取組状況に多少の変動はあるものの小学校・中学校とも100%で、しっかりと取組んでいるのが分る。

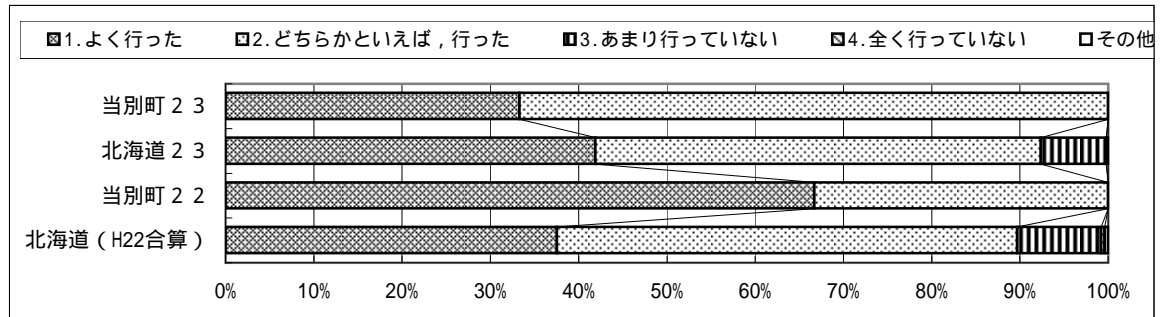
小学校

質問番号	質問事項									
(76)	算数の指導として、児童に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	52.3	44.1	3.3	0.1						0.1
当別町 2 2	100.0	0.0	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	48.1	47.7	4.2	0.0						0.0



中学校

質問番号	質問事項									
(74)	数学の指導として、生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか									
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他、無回答
当別町 2 3	33.3	66.7	0.0	0.0						0.0
北海道 2 3	41.9	50.5	7.4	0.0						0.2
当別町 2 2	66.7	33.3	0.0	0.0						0.0
北海道 (H22合算)	37.5	52.1	9.5	0.4						0.4



【考察】

当別町の小・中学校とも、算数・数学の家庭学習の課題について、指導評価を行った割合は100%行っている状態である。

家庭学習の習慣化を図るには、課題を出すだけでなく、子どもの努力の様子をしっかりと評価し励ますことが大切であり、今後とも子どもの意欲を高めるためにも、継続し

た取組が大切である。